

裾野市北部地域まちづくり基本構想


～地域社会と未来都市の融合を目指して～




令和3年4月
裾野市




はじめに

- 
- (1) プロローグ …1
 - (2) 基本構想の位置付け …2
 - (3) 対象エリア …2
 - (4) 基本構想の期間 …3

上位関連計画等の整理

- 
- (1) 第5次裾野市総合計画 …4
 - (2) 第4次国土利用計画裾野市計画 …5
 - (3) 裾野市都市計画マスタープラン …6
 - (4) 裾野市立地適正化計画 …7
 - (5) 裾野市地域公共交通網形成計画 …8
 - (6) 裾野市北部地域まちづくり基本方針 …9
 - (7) スソノ・デジタル・クリエイティブ・シティ構想 …10
 - (8) 深良地域まちづくりランドデザイン …10

北部地域の概況・現状・課題

- 
- (1) 各地域の概況 …11
 - (2) 人口・世帯から見る各地域の現状 …12
 - (3) 深良地域の特性と課題 …13
 - (4) 富岡地域の特性と課題 …14
 - (5) 須山地域の特性と課題 …15



分野別の現状と課題の整理

- (1) 産業・雇用 …16
- (2) 定住促進 …17
- (3) 公共交通 …18
- (4) 土地利用 …19
- (5) 観光 …20



基本構想

- (1) まちづくりのコンセプト・将来像 …21
- (2) まちづくりの基本方針 …22
- (3) まちづくりの重点施策 …23
- (4) まちづくりの重点施策の波及イメージ …25
- (5) 整備イメージ …26
- (6) 地域社会と未来都市の融合で描く未来 …29



基本構想の実現に向けて

- (1) 基本構想での施策実現に向けた手法の検討 …34

1. はじめに

(1) プロローグ

～かつて、農村都市から工業都市へ。いま、工業都市から田園未来都市へ。

①基本構想策定の背景

裾野市は、静岡県東部の富士山のふもとに広がり、東には箱根外輪山、西には愛鷹連山と豊かな自然に囲まれた工業のまちです。平成7年に『健康文化都市』を宣言し、誰もが健康で、人と自然のふれあいを大切にし、豊かな裾野の文化を作り続けることを目指しています。当市はこれまで、主に工業都市として繁栄してきましたが、今般、昭和30年代に立地した大手自動車製造工場が閉鎖され、その工場跡地に数千人規模のウーブン・シティ建設計画が公表されたことから、特に北部地域においては、大きな転換がなされようとしています。

このような中、本年1月に「第5次裾野市総合計画」が策定され、富士山の裾野に広がる豊かな自然のもと、市民や企業等とともに、未来志向で協働・連携し、裾野市らしい「田園」と「未来都市」が令しく調和する「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」の実現に向けて、新たなまちづくりをスタートさせます。

最近では、テレワーク等の普及により、東京一極集中が見直される中、ワーケーションや二拠点居住など地方都市が脚光を浴び始めるなど、現在のコロナ禍の“その後”も見据えた新たな社会の動きも出てきていることから、今後は、企業誘致や定住促進の更なる強化を図る必要があります。

以上を踏まえ、従来から裾野市の北部地域には、総合計画や都市計画マスタープラン等において、深良新市街地構想や職住近接の地域づくり等の構想の位置付けがありますが、ここにウーブン・シティという新たなエッセンスが加わることから、改めて各種計画を整理し、北部地域のあり方を再検討する必要が生じました。

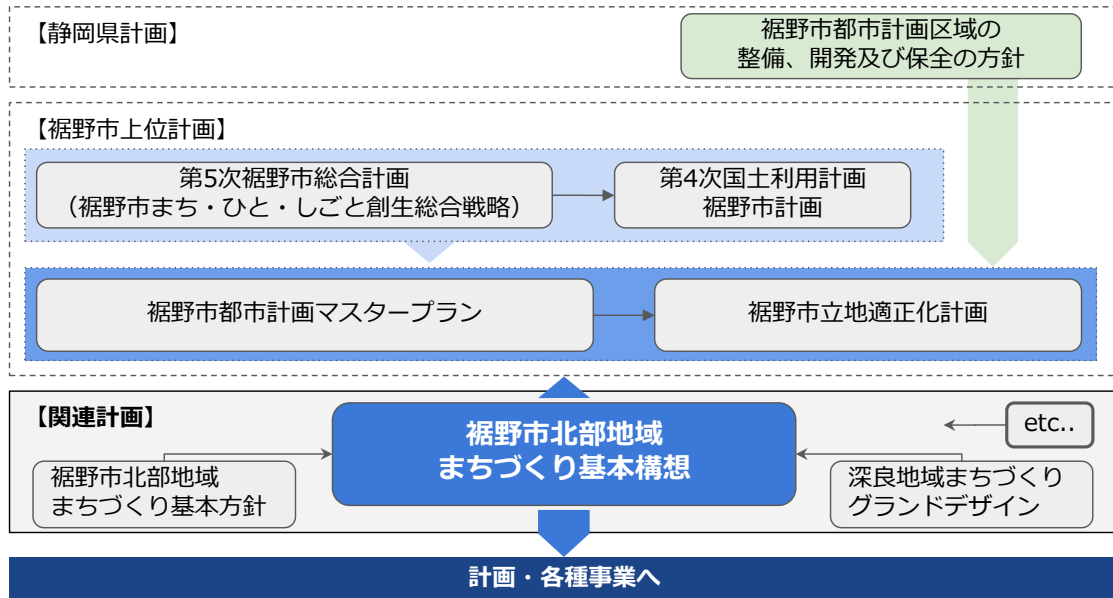
②基本構想の目的

裾野市では北部地域を中心に、昭和30年代から企業の工場誘致が進んだことにより、それまでの「農村都市」から、「工業都市」として発展を続けてきました。しかしながら、全国的に人口減少・少子高齢化が進む中で、当市でも2015年以降、人口減少の傾向が見受けられます。国では、都市再生特別措置法が一部改正（平成26年）され、市町村により定めることができる立地適正化計画を推進し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現による、少子高齢化社会への対応を図っています。当市でも、裾野市立地適正化計画を策定（平成31年）し、裾野駅と岩波駅の2拠点と地域の住宅地・既存集落地の拠点化を推進し、公共サービスを含む生活サービスと都市基盤施設の質を維持するために、選択と集中により効率的で持続可能な都市経営の実現を目指しています。その中で、裾野駅周辺においては各種事業が進行している一方、北部地域では、地域の生活交流の中心となる拠点と位置付けられた岩波駅周辺において、今後、都市基盤施設の整備が求められます。今回の北部地域まちづくり基本構想は、今般のウーブン・シティの計画という大きな出来事を動力としながら、従来からの各種計画の実行性を高めるために、今一度、北部地域の各種計画を整理し構想としてまとめるものです。

1. はじめに

(2) 基本構想の位置付け

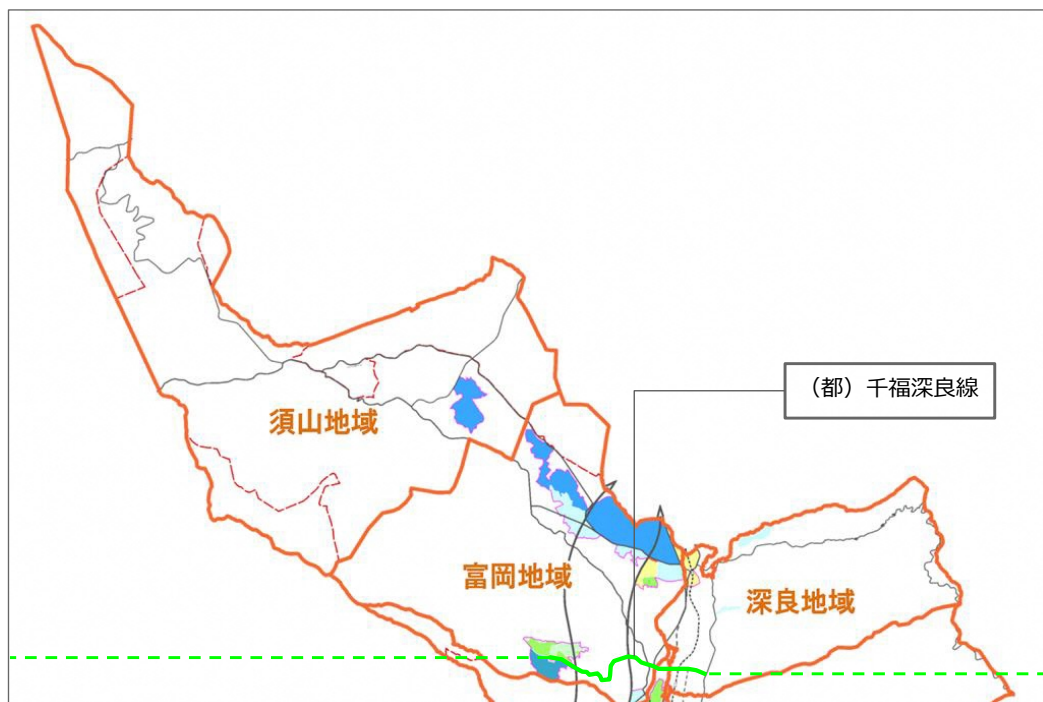
北部地域まちづくり基本構想は、第5次裾野市総合計画に即して策定され、裾野市都市計画マスタープランや裾野市立地適正化計画と整合を図りつつ、各種事業へと繋げることを見据え策定された裾野市北部地域のまちづくりの基本となる構想として位置付けるものです。



(3) 対象エリア

北部地域まちづくり基本構想では、概ね市の中心部を横断する都市計画道路千福深良線より北側の市域を想定し、裾野市都市計画マスタープランの地域区分における、深良地域、富岡地域、須山地域を対象エリアとします。

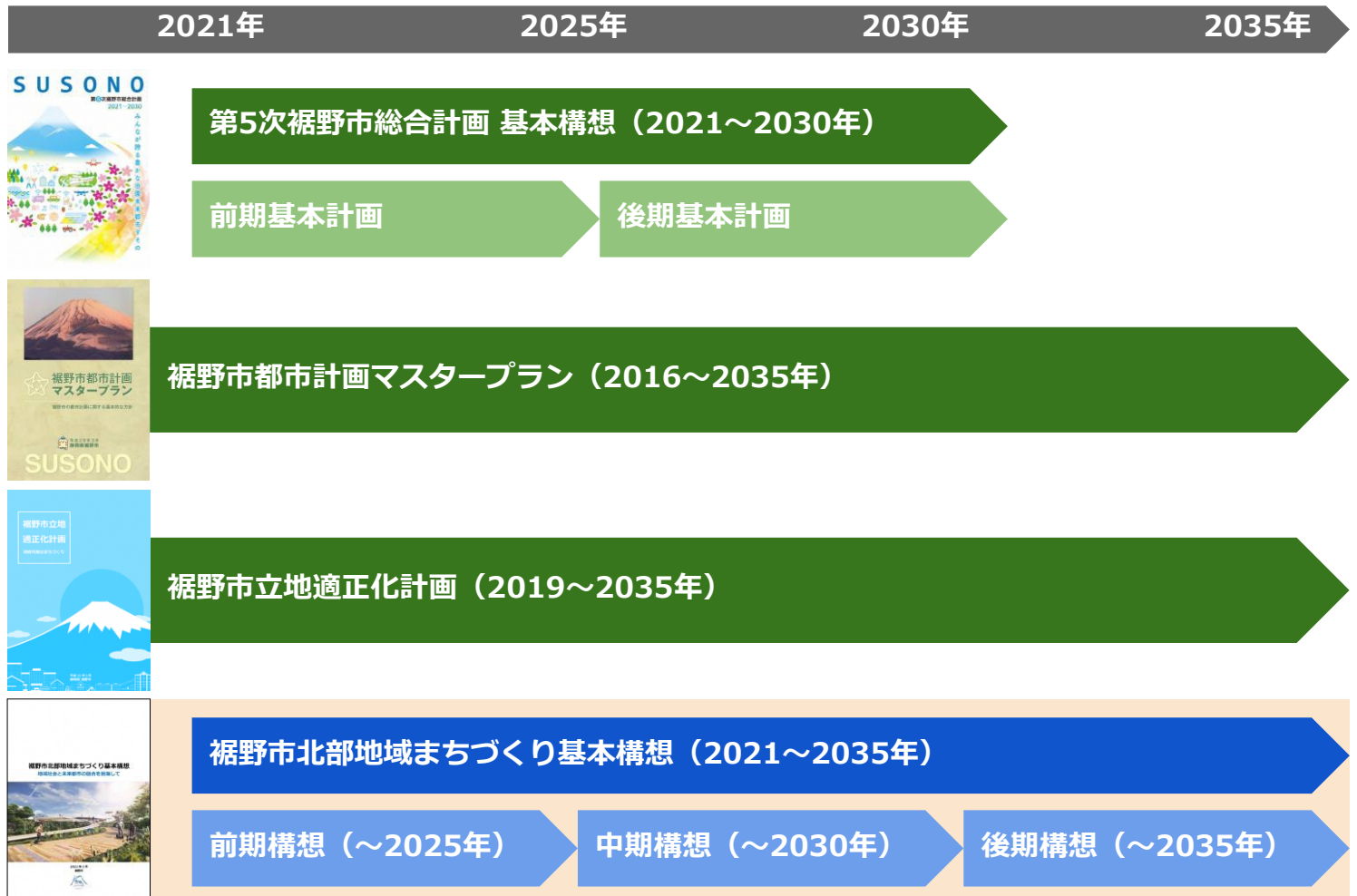
【概ねのエリア図】



1. はじめに

(4) 基本構想の期間（～2035年）

本基本構想期間は、裾野市都市計画マスタープラン及び裾野市立地適正化計画との整合を図るため、2035年までと設定します。15年の期間を、短期・中期・長期に大別し、各期間における重点施策を位置付けることとします。



2. 上位関連計画等の整理

(1) 第5次裾野市総合計画

総合計画は、2021年度から2030年度までの10年間のまちづくりの基本的な方向性を示す総合的な指針であると同時に、市民にとってもまちづくりの共通の目標となるものです。基本構想はまちの将来像と施策の大綱で構成しており、基本計画は施策の大綱に基づき、施策実現の手段（基本事業）等を定めています。



SUSONO
第5次裾野市総合計画
2021～2030
みんなが誇る豊かな田園未来都市すその

第5次裾野市総合計画

<策定>
2021年1月
<期間>
2021年度～2030年度

<裾野市らしさ>
富士山、豊かな自然、地下水、田園風景、
地域経済をけん引する企業、
地域コミュニティのつながり、地域に誇りを持つ市民 等

<まちづくりの方針>

- 住み続けたくなるまちづくり
- 人や企業に選ばれるまちづくり
- 快適で安全・安心なまちづくり
- 協働・連携するまちづくり
- 未来志向のまちづくり

<まちの将来像>
みんなが誇る豊かな田園未来都市すその

<前期基本計画> 第2期裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略と一体的に策定

<施策の大綱>

4. 将来を見据えた暮らしや活動を支えるまち

次世代型近未来都市の形成

駅周辺等の拠点づくりと多様な世代の交流の促進

良好な景観と良質な住環境の形成

誰もが移動しやすい交通環境の整備

利便性の高い道路網の整備・保全

⋮

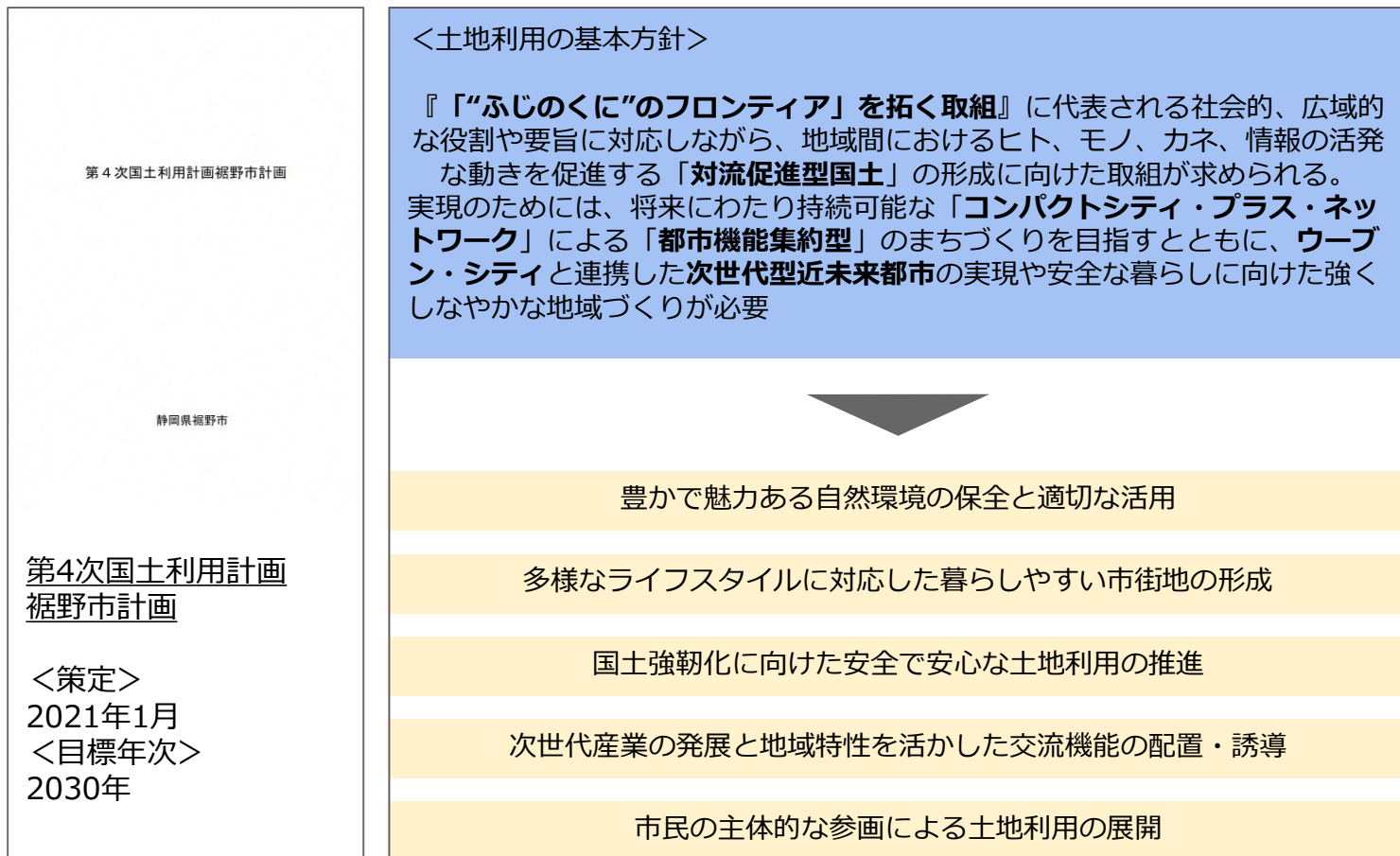
【北部地域との関連性】

- ・ウーブン・シティと連携した取り組み
- ・計画的土地利用の推進
- ・JR岩波駅・東名裾野IC周辺整備の推進
- ・深良新市街地整備の推進
- ・魅力ある景観の形成
- ・公園・緑地の整備及び維持管理
- ・安全で良質な住宅ストックの形成
- ・市営住宅の整備、維持管理
- ・公共交通網の維持・確保
- ・新たな公共交通システムの検討・導入
- ・主要幹線道路の整備 etc...

2. 上位関連計画等の整理

(2) 第4次国土利用計画裾野市計画

国土利用計画は、2030年を目標年次とし、土地利用の5つの基本方針と将来土地利用構想を定めています。



<土地利用区分別の基本方向>	
農地	保全・集積・集約化/荒廃農地の発生抑制・再生利用/土地利用転換
森林	富士山を望む雄大な眺望景観の主要構成要素等として保全
原野等	優れた環境を形成するものは保全/未利用地は都市的土地利用へ転換
水面・河川・水路	防災・治水の強化/親水空間の整備による市民の憩い、安らぎや交流の場として活用
道路	市民の移動の円滑化/観光客や次世代産業の発展・連携を促す広域的なアクセス向上
宅地	住宅地 職住近接の居住地の創出/ウーブン・シティ周辺地域の人や機能の誘導・集約
	工業用地 工業機能の集約と操業環境の維持・向上/工場跡地等の低・未利用地の有効活用
	その他の宅地 JR岩波駅周辺、千福が丘地区の生活利便機能の確保・集積/深良地区の新たな定住促進
その他	須山浅間神社や旧植松家住宅、深良用水といった文化的遺産の保存・積極的な活用

2. 上位関連計画等の整理

(3) 裾野市都市計画マスタープラン（※改訂中）

長期的な視点から、概ね 20 年後の 2035 年を目標年次として設定し、将来目指すべき都市の姿を描き、まちづくりの考え方を明らかにしています。（※策定から 5 年が経過した現状を踏まえ、今後、改訂を予定しています）



＜都市づくりのテーマ＞
誰もが生き生き暮らし満足都市の実現

＜都市づくりの目標＞

目標1	市民・事業者・行政みんなで取り組む持続可能な都市づくり
目標2	安全・安心に生活できる多様な都市機能を備えた定住都市づくり
目標3	活力ある産業を育む都市づくり
目標4	人・もの・情報がつながる交流都市づくり
目標5	富士山麓の恵まれた環境を保全し自然と共生する都市づくり

都市づくりの目標の実現のため、「土地利用」「道路・交通」「都市環境」「都市防災」「都市景観」の5つの分野ごとに、基本方針を策定しています（※全体構想及び地域別構想で、北部地域に関連する項目を抽出）

＜分野別基本方針＞ ※全体構想

土地利用の基本方針	JR岩波駅周辺/新工業用地/職住近接型検討エリア/深良新駅周辺・新市街地エリア
道路・交通の基本方針	国道246・469号/県道富士裾野線/御宿下和田線/県道仙石原新田線/岩波駅周辺/バス交通
都市環境の基本方針	裾野市運動公園/景ヶ島公園/御師公園/黄瀬川、佐野川
都市防災の基本方針	富士山ハザードマップ/黄瀬川・大場川洪水ハザードマップ/防災拠点・避難路等の整備
都市景観の基本方針	富士山眺望を活かした道路景観/裾野市の顔となる景観の向上（国道246号/裾野IC/JR駅）

＜地域別構想＞ ※深良・富岡・須山地域

土地利用の基本方針	裾野IC周辺及び深良新駅（構想）周辺の市街化区域編入も視野に入れた都市基盤整備
道路・交通の基本方針	県道富士裾野線/県道仙石原新田線/市道1-4号線/神山深良線/深良新駅設置促進/JR岩波駅
都市環境の基本方針	佐野川及び黄瀬川の保全と水とみどりのネットワーク形成
都市防災の基本方針	裾野市運動公園の防災機能強化/DIG・HUG等による防災意識・知識の向上
都市景観の基本方針	景ヶ島溪谷や葛山城址等の文化財保全/パノラマロード/深良用水の保全と活用

2. 上位関連計画等の整理

(4) 裾野市立地適正化計画

都市計画マスタープランの一部とみなし、同様に2035年を目標年次として設定し、5つの方向性を踏まえ、まちづくりの方針を掲げています。

裾野市立地適正化計画
持続可能なまちづくり

裾野市立地適正化計画
＜策定＞
2019年3月
＜目標年次＞
2035年

＜立地適正化計画の方向性＞

- 高齢者だけでなく多様な世代が交流することで、市民が安心して元気に暮らすことができるまちを目指します
- 人口密度が高いJR裾野駅周辺とJR岩波駅周辺の拠点性の向上を図るとともに、民間活力による賑わいの創出を目指します
- JR裾野駅・JR岩波駅を中心とした持続的な公共交通ネットワークの形成と利用者の維持を目指します
- 持続的で健全な財政運営と行政サービスを維持し、市民が住みやすいまちを目指します
- 市街地の活力と生活利便性を向上し、ネットワークを維持することで、郊外住宅と集落の定住とコミュニティの維持を目指します

＜立地適正化計画におけるまちづくりの方針＞
持続可能な都市づくりに向けた『駅周辺の拠点性の向上と多様な世代の交流』

裾野市における「拠点連携型都市構造」のイメージ

裾野市における「拠点連携型都市構造」のイメージ

- 都市機能誘導区域：鉄道を中心に都市機能誘導区域を設定
- 中心拠点（裾野駅）
- 中心拠点（岩波駅）
- 居住誘導区域：都市機能誘導区域の周辺に居住誘導区域を設定
- 周辺の住宅地・集落地：生活利便施設・コミュニティを維持し、ネットワークにより利便性を高める
- 地域拠点

裾野市版コンパクトシティ・プラス・ネットワークの方向性

2つの拠点の特色を活かした『ダイヤモンド富士型』都市構造による持続可能なまちづくり

多様な世代が交流するための機能誘導

郊外住宅・集落の生活利便性とコミュニティの維持
拠点と郊外部を結ぶバス路線の維持

職住近接のための戦略的な機能誘導

すその一の見直し等による裾野駅周辺へのアクセス強化

裾野駅周辺

岩波駅周辺

岩波駅周辺の利便性向上（市民、従業員の定住等）

人口・都市機能

※『ダイヤモンド富士』とは…富士山の山頂部と太陽が重なって生じるダイヤモンドが輝くような光景

2. 上位関連計画等の整理

(5) 裾野市地域公共交通網形成計画

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」第5条に規定する法定計画として、上位計画に即しつつ、「裾野市都市計画マスタープラン」や「裾野市立地適正化計画」との整合を図り、公共交通に係る事項を位置付けています。

<地域公共交通の基本理念>

拠点・集落を結び、地域公共交通網の維持、利用しやすい公共交通サービスの展開による持続可能な都市づくりの実現

<地域公共交通の構築に係る基本方針>

- ① 広域アクセスに配慮しつつ、公共交通機関の機能分担と拠点機能の強化によるネットワークの再構築を目指す
- ② 観光振興や商業活性化などまちづくりと一体となった公共交通サービスの展開を目指す
- ③ 「地域が支え、育てる」持続可能な公共交通の確立を目指す

裾野市地域公共交通網形成計画

平成30年5月

裾野市

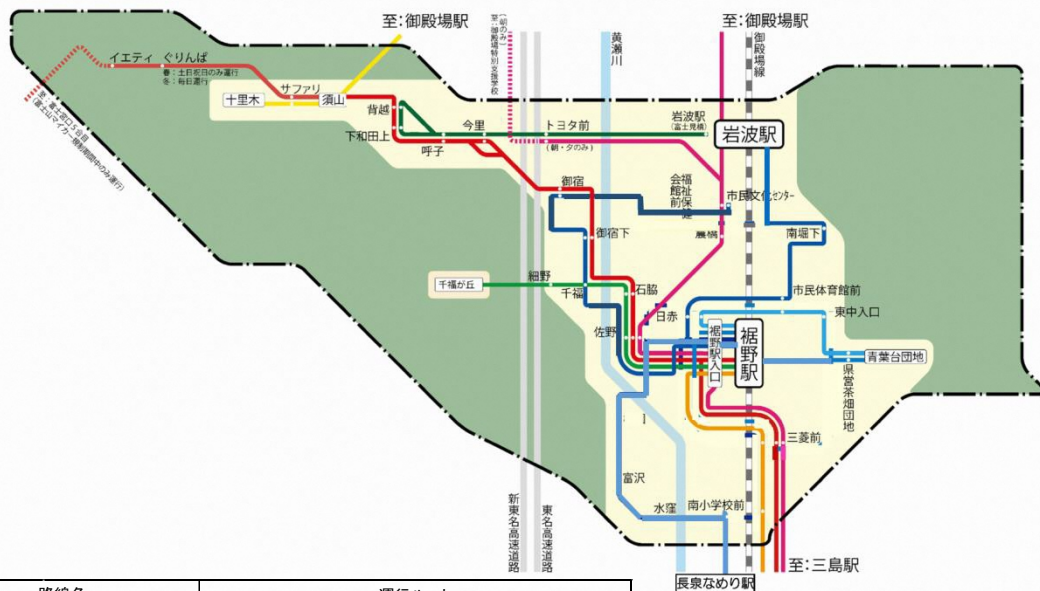
裾野市地域公共交通網形成計画

<策定>

2018年5月

<計画年次>

2018～2022年度



凡例	路線名	運行ルート
—	須山線	三島駅-裾野駅-御宿-下和田上-須山
—	御殿場線	三島駅-裾野駅入口-文化センター-岩波駅-御殿場駅
—	十里木線	御殿場駅-須山-十里木
—	桜堤線	三島駅-三島駅北口-桜堤-裾野駅
—	東急線	裾野駅-文化センター-東急千福が丘
—	岩波駅線	岩波駅-今里-下和田上-今里-岩波駅
—	裾野・岩波線	裾野駅-深良支所-岩波駅-富士見橋
—	裾野・富岡線	裾野駅-葛山-御宿-文化センター
—	青葉台・長泉なめり線	青葉台-滝頭-裾野駅-富沢-長泉なめり駅
—	青葉台線	裾野駅-赤十字病院-青葉台団地

2. 上位関連計画等の整理

(6) 裾野市北部地域まちづくり基本方針

裾野市内陸フロンティア推進区域（現 ふじのくにフロンティア推進区域）で掲げる「防災・減災と職住近接に配慮したまちづくり」の実現に向け、市総合計画や各種計画とも整合性を図りながら方針化します。

<p>裾野市北部地域まちづくり基本方針</p> <p>平成 28 年 4 月 裾野市</p>	<p><まちづくりのコンセプト・方向性></p>
<p>裾野市北部地域 まちづくり 基本方針</p> <p><策定> 2016年4月</p>	<p><まちづくりの基本方針></p> <p>快適で過ごしやすい生活環境を創出し、職住近接のまちづくりを目指します</p> <p>ゆとりある住居空間を創出し、環境・景観に配慮したまちづくりを目指します</p> <p>北部地域の特色である、グローバル企業との連携を推進し、次世代の技術を利用したスマートシティを目指します</p> <p>防災・減災のまちづくりを目指します</p>

裾野市北部地域まちづくり基本方針の考え方は、工学院大学建築デザイン学科による岩波駅周辺地区を対象とした定住型都市の提案なども基にしながら構築しました。当時の提案が、ウーブン・シティを予感させるようでもあり、まさに北部地域において、コンセプトに掲げるようなまちがいよいよ実現しようとしています。

※工学院大学による定住型モデル都市の提案

<p><コンセプト></p> <p>活力の絶えないまち</p> <p>絶えず変化する住み続けたいなるまち</p> <p>“未来のまち=スマートシティ”</p>	<p><裾野市が目指す未来のまち></p> <p>新しいまちと工場、研究所の関係</p> <p>生活とコミュニティ</p> <p>交通ネットワークとパブリックスペース</p>
---------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------



2. 上位関連計画等の整理

(7) スソノ・デジタル・クリエイティブ・シティ構想 (SDCC 構想)

データ・デジタルの利活用時代を見据え、「次世代型近未来都市構想」の策定に着手する中で、「デジタル」と「クリエイティブ」をキーワードに、社会情勢を踏まえた9つの取組みの方向性とを示しています。



スソノ・デジタル・クリエイティブ・シティ構想 (SDCC構想)

スソノ・デジタル・クリエイティブ・シティ構想

<策定>
2020年3月
<目標年次>
2035年

<目指す姿>
豊かな自然と調和する次世代型近未来都市

<取組みの方向性>	<取組み (例) >
ウーブン・シティ周辺等の整備及び地域との融合	岩波駅周辺の利便性
高付加価値の産業育成・雇用の確保	新産業集積クラスター
誰もが移動しやすい交通環境の整備	Maasの仕組みの導入
災害に強い地域循環共生圏の形成	地域循環共生圏の形成
グローバル人材の育成とICT環境の整備	最先端教育の実施
超高齢社会に対応した健康・医療の推進	AI活用による健康管理
持続可能で稼げる農林業の推進	無人トラクターやドローン等
富士山麓の「場の力」を活かしたツーリズムの推進	ホテル建設などの土地利用調整
スマート自治体の推進	行政手続きの電子化

(8) 深良地域まちづくりグランドデザイン (市民発意)

深良新駅設置請願提出から一定期間を経て、改めて新市街地構想などに向けた活動を具現化するため、地域住民の要望やアイデアをもとに深良地域まちづくりグランドデザインを描いています。



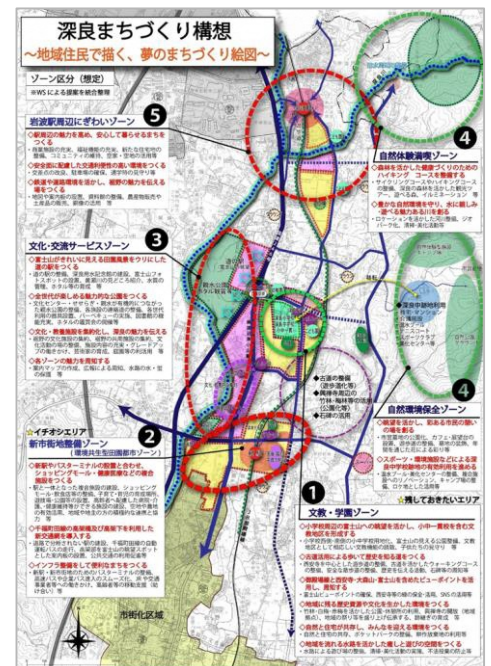
深良地域まちづくりグランドデザイン

深良地域まちづくりグランドデザイン

<策定>
2020年3月

<深良地域で描く 将来のカタチ>

- 文教・学園ゾーン
- 新市街地整備ゾーン (環境共生型田園都市ゾーン)
- 文化・交流サービスゾーン
- 自然環境保全・自然体験満喫ゾーン
- 岩波駅周辺にぎわいゾーン



3. 北部地域の概況・現状・課題

(1) 各地域の概況

3ページで対象としたエリアについては、裾野市都市計画マスタープランにおいても、地域として一体的にまとまりがあり、多くの住民等が認識しやすい範囲として「中学校区」単位を基本に地域区分がなされています。今回の北部地域まちづくり基本構想においては、概ね須山地域、富岡地域、深良地域が該当します。ここでは、各地域の立地及び概況、人口動態から見る現状を整理します。



【須山地域の概況】

富士山麓に属し、須山支所を中心とした既存集落とともに、高原別荘地や観光施設等が立地する地域です。

世界遺産「富士山」とその構成資産である須山浅間神社等の保全とまちづくりへの活用を図るとともに、観光施設が立地する地域として、幹線道路の整備により地域間の連携を強化し、交流を促進することにより、地域の活力を生み出すまちづくりが求められます。

【富岡地域の概況】

裾野IC周辺の多くの工場が立地する産業拠点である工業地や、愛鷹山麓の山林や佐野川の自然やこれらが生み出す景勝地のほか、葛山城址等の史跡を有する地域です。

幹線道路の整備により地域間の連携を強化するとともに、産業の拠点との調和を図りながら、多くの景勝地・史跡を活かし、地域の活力を生み出すまちづくりが求められます。

【深良地域の概況】

箱根山麓に属し、当市の歴史上重要な史跡である「深良用水」と深良川等の清流を有するとともに、JR岩波駅と住居系を主とする市街地を有する地域です。

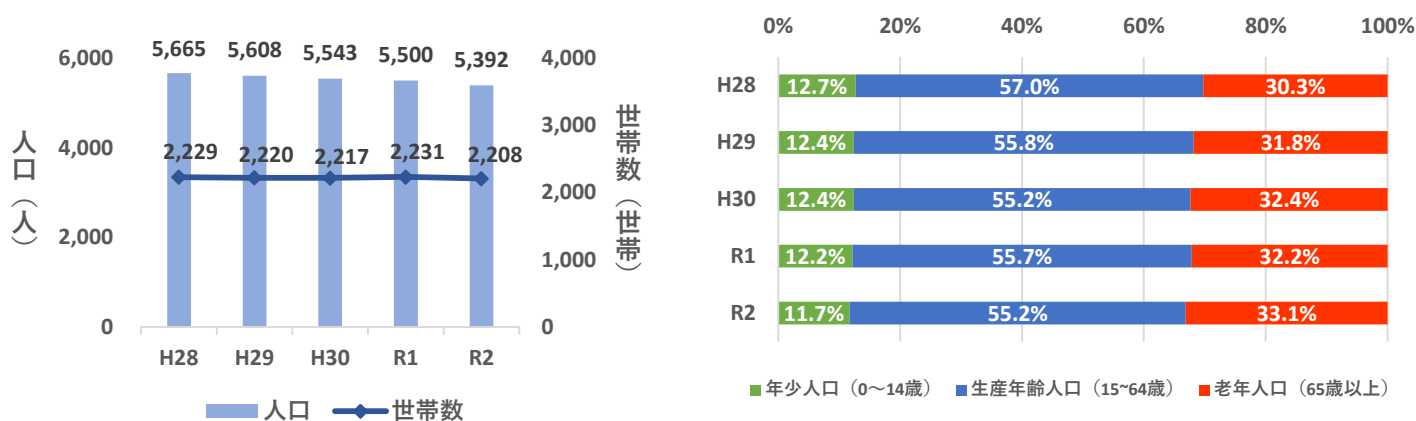
幹線道路の整備により地域間の連携を強化するとともに、世界かんがい施設遺産となった「深良用水」の保全とまちづくりへの活用を図り、交流を促進し、地域の活力を生み出すまちづくりが求められます。

3. 北部地域の概況・現状・課題

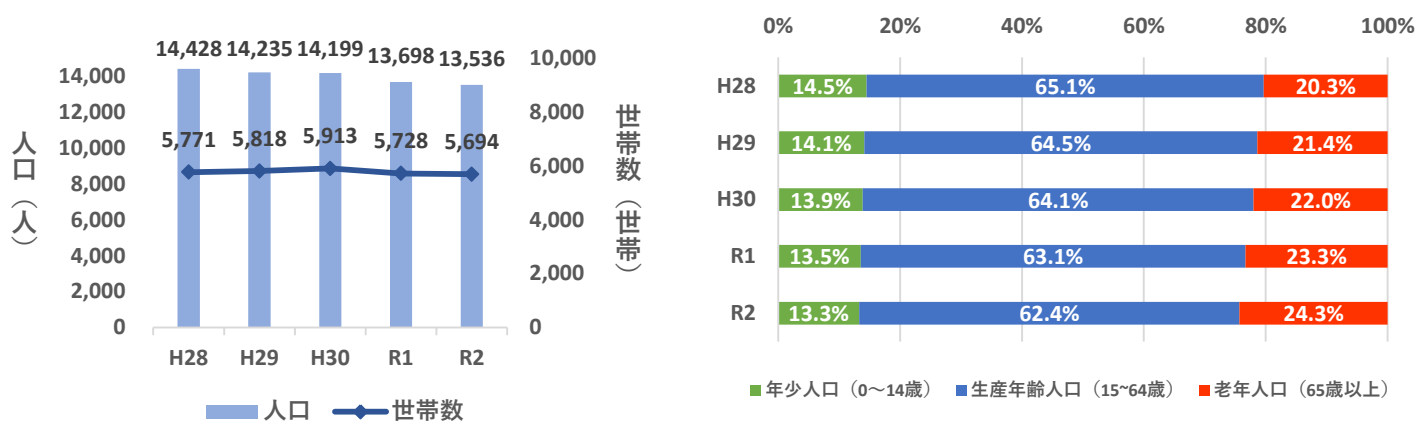
(2) 人口・世帯数から見る各地域の現状

当市の人口は、2010年までの微増傾向から、2015年には減少に転じており、深良・富岡・須山地域においても減少傾向が続いています。世代別に見ると、年少及び生産年齢人口は減少傾向にあり、65歳以上の老年人口は大幅に増加している状況で、少子高齢化が進んでいます。

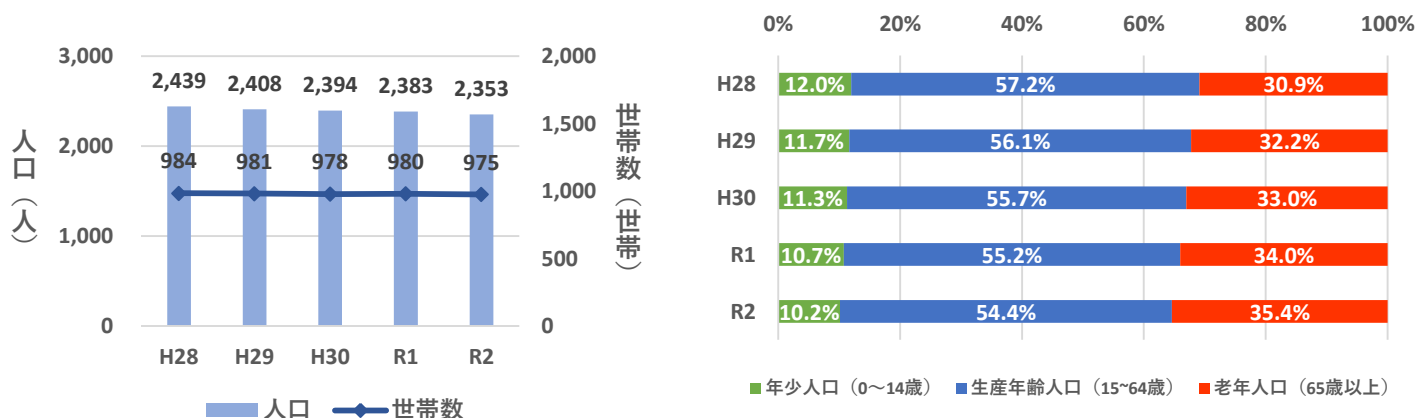
深良地域



富岡地域



須山地域



3. 北部地域の概況・現状・課題

(3) 深良地域の特性と課題

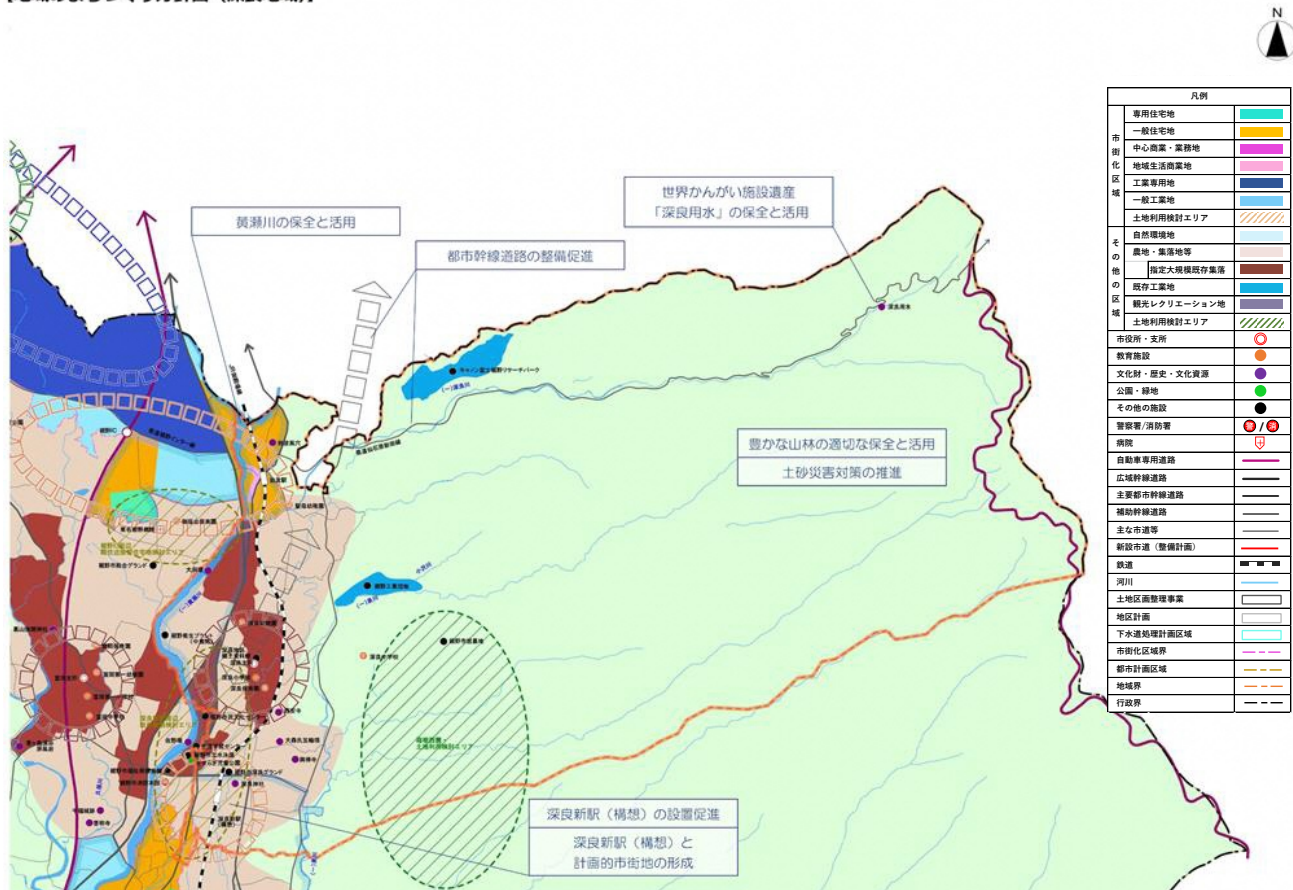
①概況と特性

箱根山麓に属し、多くを山地が占めており、黄瀬川の東側に広がる平坦地には、水田が広がり集落が形成され、生涯学習センターや裾野市福祉保健会館、裾野市民文化センター等の公共施設が立地・集積しています。JR岩波駅周辺においては、住居系と一部商業系用途が指定された市街地となっているほかは、ほとんどが市街化調整区域となっています。

②地域の課題

- JR岩波駅周辺については、駅利用者の安全性や利便性の確保のため、道路等の必要な基盤整備が必要です。また、近隣商業地・地域生活の拠点となっており、都市機能等の維持・充実が求められています。
- 生涯学習センターや裾野市福祉保健会館、裾野市民文化センター等の公共施設が集積する区域については、新たな拠点づくりに向けた検討が必要です。
- 人口減少と高齢化の進展による地域活力の低下が懸念されています。既存集落の活力維持のため、周辺の自然環境や営農環境と調和した良好な居住環境の維持や定住化の促進が求められています。
- 世界かんがい施設遺産となった「深良用水」を活かしたまちづくりが求められています。

【地域のまちづくり方針図（深良地域）】



3. 北部地域の概況・現状・課題

(4) 富岡地域の特性と課題

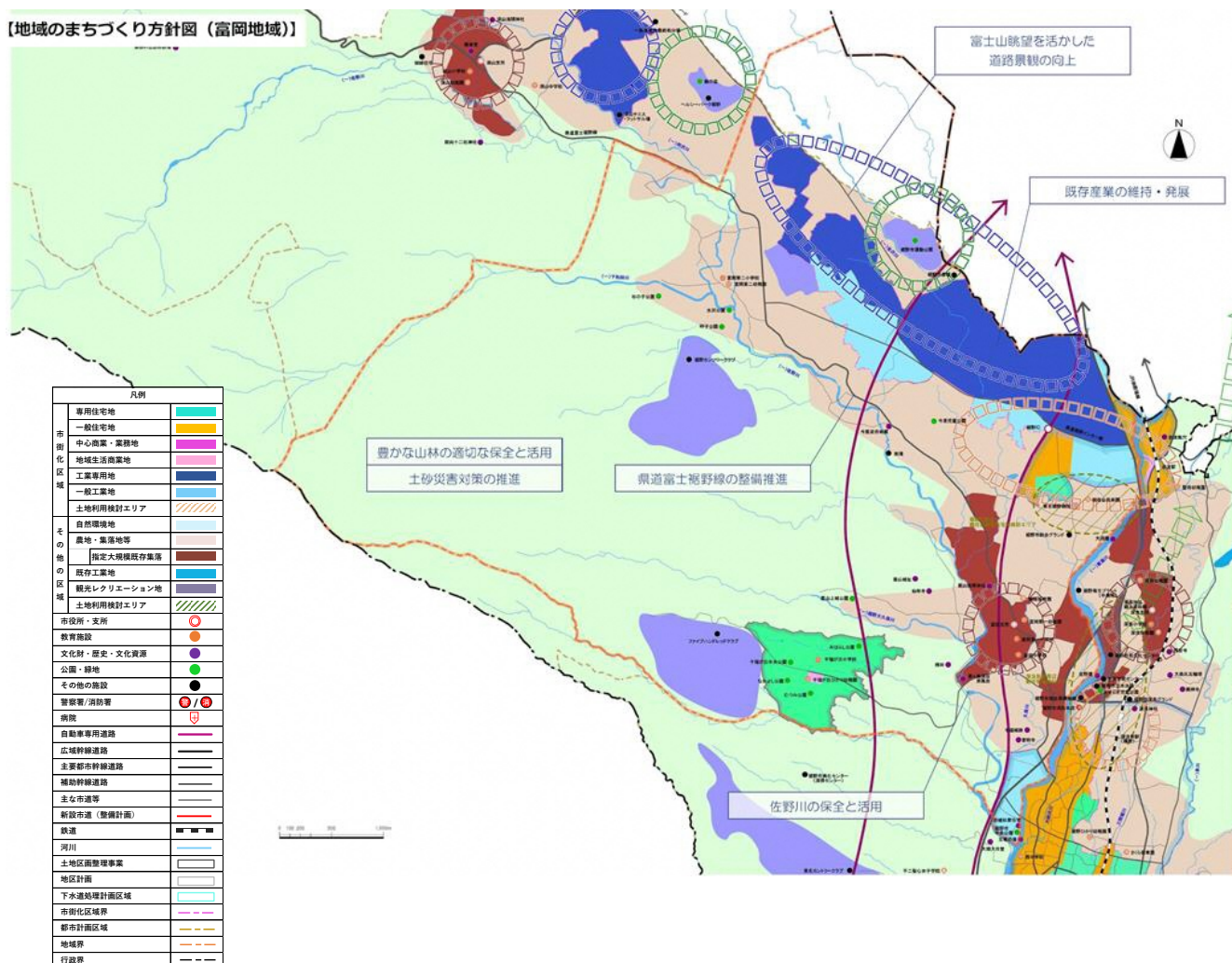
①概況と特性

愛鷹山麓の東側の裾野に広がる地域で、東名高速裾野IC周辺から都市計画道路の御宿下和田線沿いに、工場等が立地しており、工業系用途の市街地となっています。また、景ヶ島や屏風岩などの自然が生み出した景勝地のほか、葛山城址などの史跡・文化財が点在しています。

②地域の課題

- 産業構造の変化などによる既存企業の流出を防ぐとともに、地域や当市の活力を創出する既存の工業地の維持・発展のため、工業系土地利用の維持と企業誘致の推進が求められています。
- 人口減少と高齢化の進展による地域活力の低下が懸念されています。既存集落の活力維持のため、周辺の自然環境や営農環境と調和した良好な居住環境の維持や定住化の促進が求められています。
- 愛鷹山麓の豊かな森林は、自然資源として、また水源かん養や土砂災害の防止等の重要な機能の維持のほか、市街地の背景となる景観資源等として、適切な管理による保全が求められています。
- 佐野川等の豊かな自然環境や自然が生み出す景勝地、葛山城址等の史跡等を活かしたまちづくりが求められています。

【地域のまちづくり方針図（富岡地域）】



3. 北部地域の概況・現状・課題

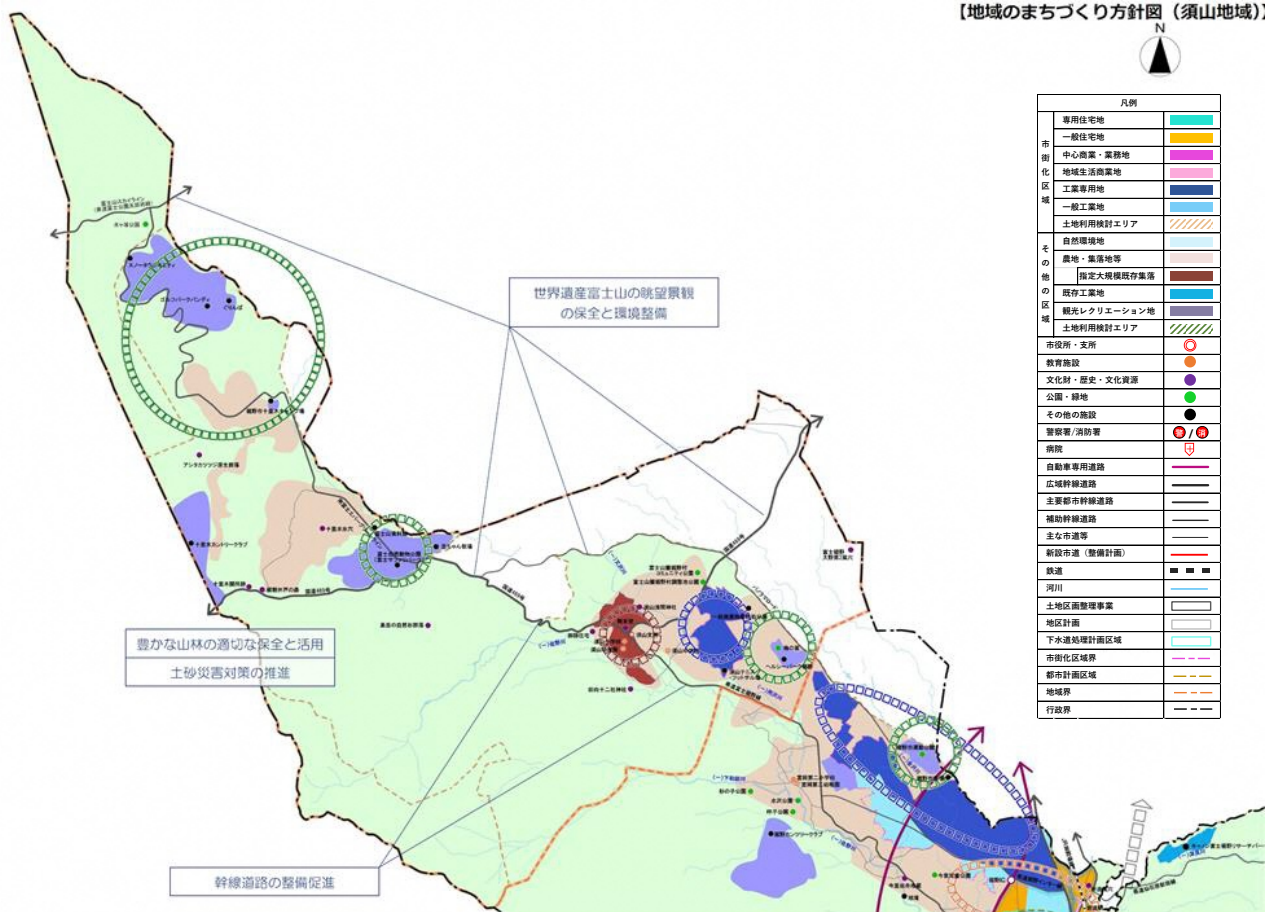
(5) 須山地域の特性と課題

①概況と特性

世界遺産の富士山・愛鷹山麓に属し、須山支所を中心とした在来集落とともに、テーマパーク（動物園・遊園地）やスキー場等の多くの観光レクリエーション施設と、大規模な別荘地が立地する高原地域であり、森林が広がっています。富士裾野工業団地、新富士裾野工業団地が整備され、工業系用途の市街地となっているほかは、市街化調整区域となっています。

②地域の課題

- 世界遺産富士山の山麓地域であり、多くの観光レクリエーション施設が立地する地域として、豊かな自然環境や既存集落との共存を図りつつ、景観への配慮など、魅力ある地域づくりが求められています。また、周辺地域との連携・連絡の強化が求められています。
- 高齢化の進展による地域活力の低下と今後における人口減少が懸念されています。既存集落の活力維持のため、来訪者等との交流の促進のほか、周辺の自然環境や営農環境と調和した良好な居住環境の維持や定住化の促進が求められています。
- 世界遺産の富士山・愛鷹山麓に属す森林等の自然環境が豊かな地域であり、これらの自然環境の保全を図るとともに、地域のまちづくりへの活用が求められています。



4. 分野別の現状と課題の整理

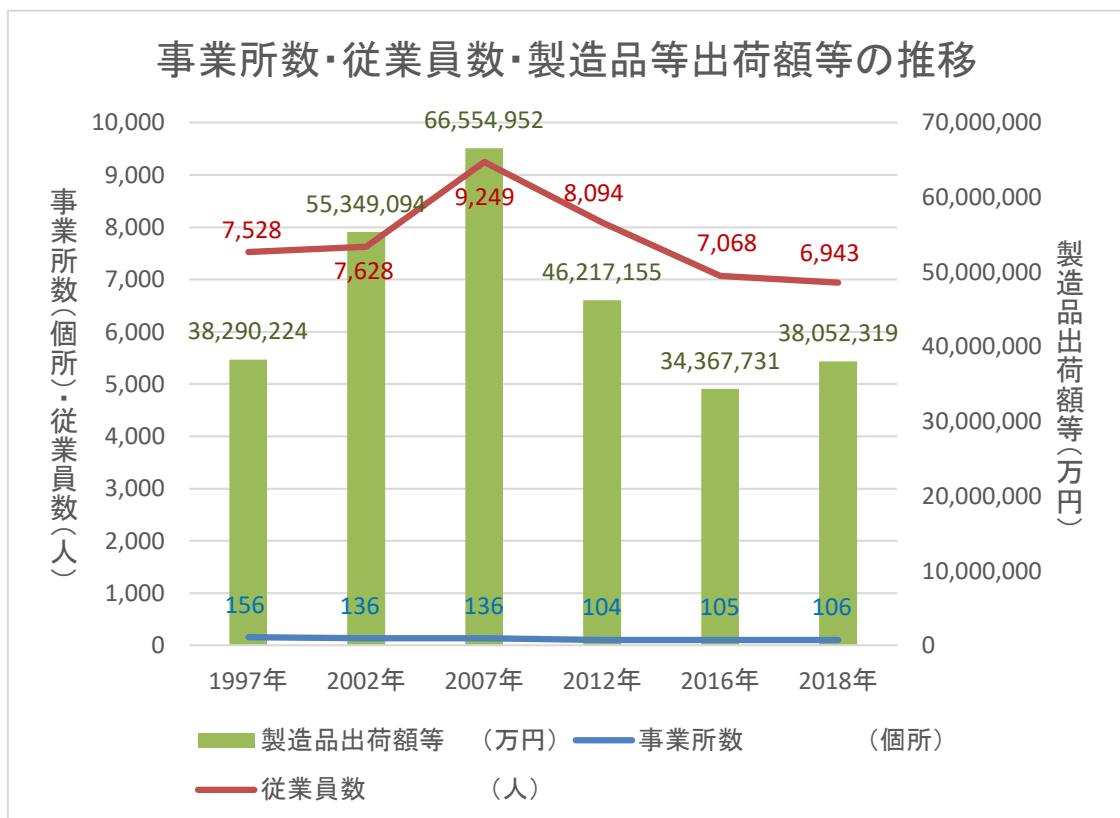
(1) 産業・雇用

①現状

当市の2019年度の事業所数及び従業者数は、106事業所、6,943人となっています。年次によって増減があるものの2007年をピークに減少しています。製造品出荷額は、2018年で約3,805億円であり、年次によって増減はあるものの、2007年をピークに2016年にかけて大きく減少しましたが、それ以降はほぼ横ばいで推移している状況です。2008年のリーマンショックを発端とする世界的な景気の後退などの影響により輸出関連産業を中心に大きな打撃を受け、雇用情勢の悪化や法人税収入の低下などを招き、当市の経済にも大きな影響を及ぼしています。

②課題

- 当市の産業構造として、多くの中小企業に大手企業との直接的な生産・取引関係が少ない特徴が見受けられ、連鎖的な雇用創出に至っておらず、県外へ進学した学生のUターン就職にもつながっていません。
- 雇用創出のための企業誘致や、SDCC 構想とも連携した新産業の誘致に向けた受け皿の整備促進が必要となります。

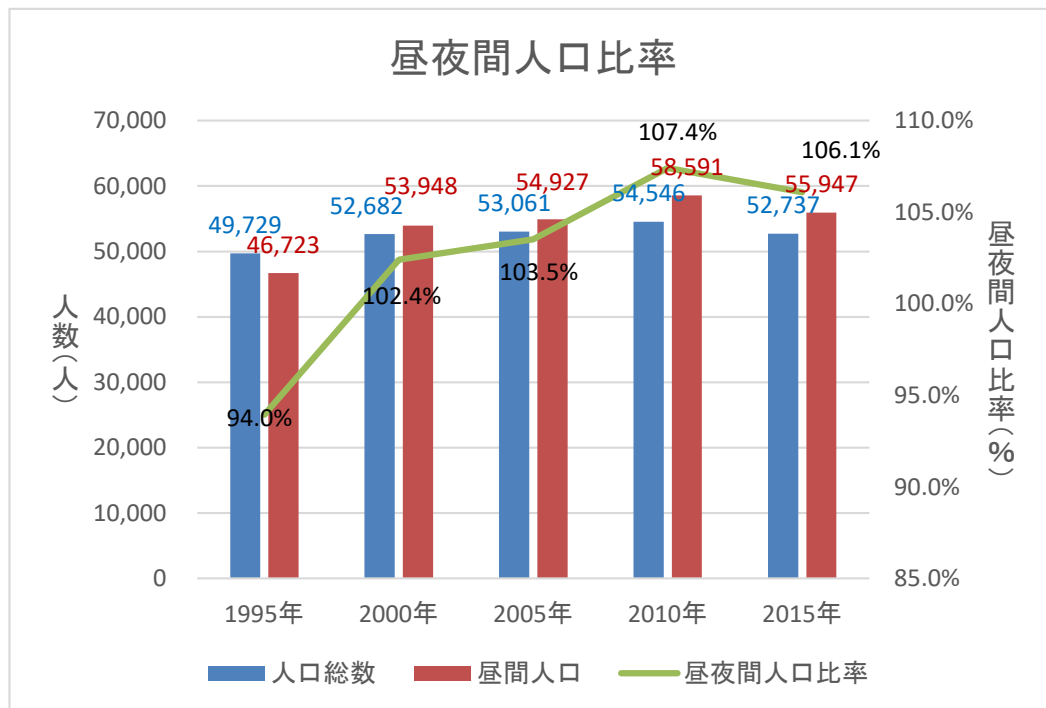


4. 分野別の現状と課題の整理

(2) 定住促進

①現状

これまで当市は、市内に立地する企業とともに発展を続けてきましたが、この20年の間にまちの姿は少しずつ変化していきました。市内就業者数は増加したものの、市内在住の就業者数は減少し、他の市町に居住し、当市で働く人が増加しました。その結果、1990年に93.3%だった昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口比）は、2010年には107.4%に上昇しました。これは、市内での宅地供給が不足していることを示しており、市外に居住する市内就業者の自動車通勤を増加させ、慢性的な通勤渋滞を引き起こす原因ともなっています。



②課題

- 市内、特に北部地域においては、多数の工業団地や大企業の立地などを背景に、従業員用社宅が点在しています。
- 一方で、それら社宅の居住者などが持家取得時に市外へ転出してしまいう状況が課題となっています。結果として、「近隣市町に住んで裾野市へ通う」という就業者が増加傾向にあります。
- 就業者転出傾向は、御殿場市と沼津市が多くなっています。特に北部地域においては、御殿場市への転出を抑制するため定住促進策が効果的であると考え、すでに職住近接の地域まちづくりとして新たな宅地分譲に向けた事業にも着手しています。今後も、人口減少社会において継続的に定住促進の取組みが求められます。

4. 分野別の現状と課題の整理

近隣市町への転出状況

(単位:人)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	合計	
御殿場市	296	206	212	196	168	1,078	1
沼津市	189	218	217	213	217	1,054	2
三島市	229	184	159	125	202	899	4
小山町	18	12	17	25	21	93	6
清水町	56	35	35	25	29	180	5
長泉町	168	239	250	168	173	998	3
県内	404	333	359	354	359	1,809	
県外	3,065	3,035	2,975	2,959	2,800	14,834	
合計	4,425	4,262	4,224	4,065	3,969	20,945	

(3) 公共交通

①現状

公共交通機関は、JR御殿場線の裾野駅と岩波駅の2駅が設置され、路線バスは富士急モビリティ(株)と富士急シティバス(株)の2社により、裾野駅及び岩波駅、三島駅、御殿場駅等を起点に8路線が運行しているものの、公共交通空白地域が点在しています。特に北部地域においては、交通の結節点が脆弱と言えます。また、市内を運行する8路線全てで国県市から毎年多額の補助金が交付され、運行を維持しています。

②課題

- 「裾野市立地適正化計画」と連動し、観光振興や商業活性化等と一体となった回遊性・快適性の向上が求められます。
- 高齢者・障がい者・子ども等の交通弱者に配慮した移動手段を確保する必要があります。
- 「すそのーる」の見直しや新たな公共交通システムの導入による移動手段を確保する必要があります。
- バス・タクシーの運転手不足や高齢化による既存公共交通の維持が課題となっています。
- 公共交通機関同士の乗り継ぎの利便性の改善が求められます。
- 広域的な交通結節点であるJR三島駅へのアクセスを強化する必要があります。
- 地域・交通事業者・行政との役割分担による持続可能な仕組みづくりが求められます。



4. 分野別の現状と課題の整理

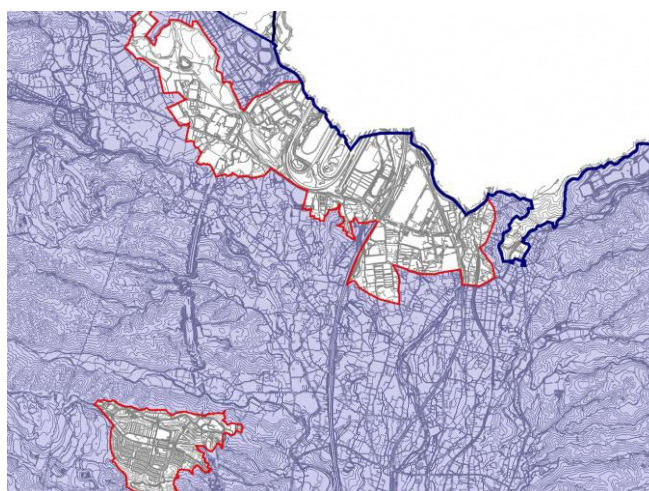
(4) 土地利用

①現状

- 従来から JR 岩波駅及びその周辺は、朝夕の通勤・通学等による混雑や駅周辺の歩行者動線と車動線の重複による交通事故発生等の危険性が高い箇所であり、基盤整備の必要性が謳われてきました。研究開発拠点地区と位置付けられたウーブン・シティの建設に伴い、その重要性がより高まることが予想されます。
- 北部地域の広い範囲が市街化調整区域となっています。
- 農業振興地域の農地が点在しており、土地利用にあたり規制が多い状況にあります。

②課題

- 各種構想・計画において新市街地構想のあるエリアにおいても、ほとんどが市街化調整区域である状況です。今般、ウーブン・シティ建設にあたり、工業専用地域から準工業地域へと用途地域変更の都市計画決定を実施しました。今後、波及的な開発が行われることを想定すると、柔軟な土地利用への対応が求められます。
- 工場跡地でのウーブン・シティの「グリーンフィールド型」の新規開発に対し、周辺地域では住民等の合意も図りながら、「ブラウンフィールド型」の既存都市の開発・インフラ整備が求められます。



紫：市街化調整区域
白：市街化区域

4. 分野別の現状と課題の整理

(5) 観光

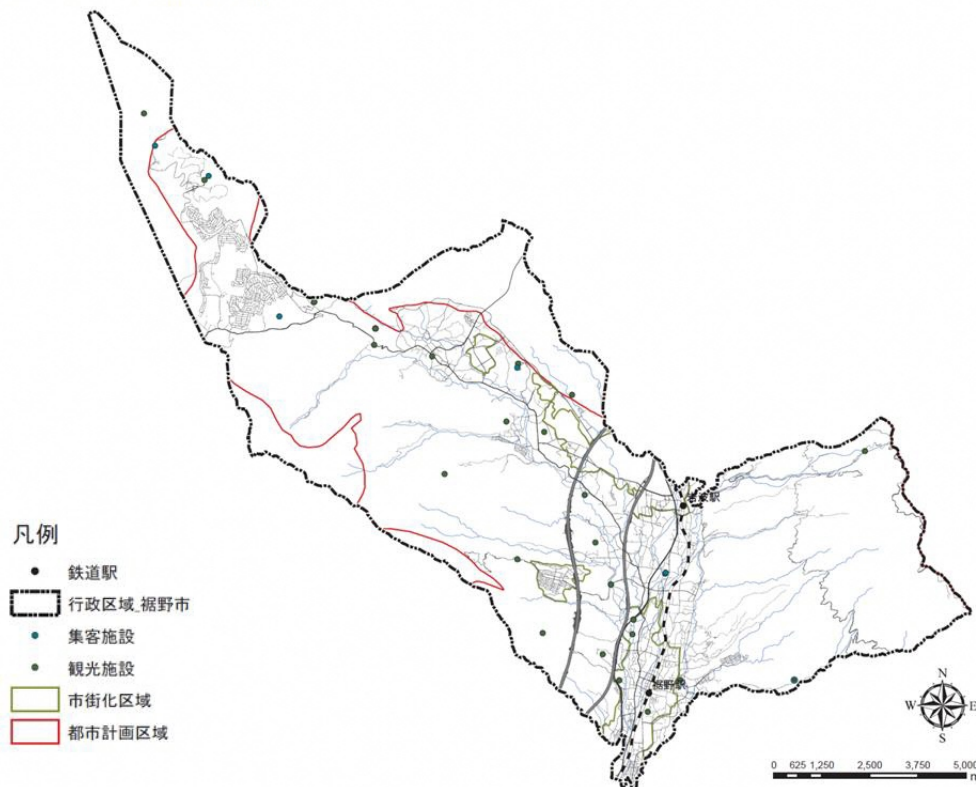
①現状

- 知名度の高い観光施設が多く、多くの来訪者を集めているものの、宿泊施設や来訪客向けの飲食・物販施設が少ない状況です。
- 裾野市への観光交流客数は増加傾向にあり、富士山世界遺産登録の構成資産である須山浅間神社などの地域資源の活用により、今後さらなる増加が期待できます。

②課題

- 余暇を楽しむ国内人口の増加などにより、当市でも交流人口の拡大が予想され、観光産業を地域活性化に結び付けるための受け皿づくりが求められています。
- 知名度の高い観光施設が多くあるものの点在しており、宿泊施設や飲食・物販施設も少なく、拠点づくりと各拠点をつなぐネットワークの構築が求められています。
- コロナ禍において、東京一極集中が見直される中、「ワーケーション」「2拠点居住」などのキーワードで、地方都市が脚光を浴びている中、ウーブン・シティの開発も踏まえ、産業と連携した観光拠点づくりへも対応する必要があります。

■観光施設・集客施設の分布



5. 基本構想

(1) まちづくりのコンセプト・将来像

上位関連計画等及び課題の整理を踏まえ、北部地域における従来からのまちづくりの方向性を確認しました。この方向性に対し、研究開発拠点と位置付けられているウーブン・シティ建設の計画や、SDCC 構想を中心とした取組みとしてのオープンイノベーションにより、従来からある各種構想の実現を加速させることを目指します。

下記にその構造を示しますが、拠点整備による利便性向上及び賑わいの創出により、職住近接の地域づくりの拡充や、更なる産業誘致に向けた企業用地創出を目指します。併せて、現在のコロナ禍にも対応しながら、その先の“新しい生活様式”の定着に向け、ハードだけではなく、デジタルやデータの利活用といったソフト面での取組みにより、少子高齢化や公共交通の維持といった課題への対応を図ります。

以上のことから、北部地域を地域社会と未来都市の融合により、これらの課題解決の実現を図る一大拠点（みらいづくり発信基地）と位置付け、長期的には市内全域でその波及効果が得られることを目指します。

まちづくりのコンセプト



5. 基本構想

(2) まちづくりの基本方針

裾野市立地適正化計画においては、裾野駅と岩波駅の2つの拠点の特色を活かし、持続可能なまちづくりを目指しており、裾野駅周辺では、駅西の土地区画整理事業を実施中です。また、この2拠点を南北でより効率的に結ぶため、南北軸の国道246号と市街地の連携・連絡を強化する(都)平松深良線を整備中です。今後、岩波駅周辺の基盤整備を実施することで、拠点性の向上を図り、北部地域における交通結節点としての機能や生活利便機能の拡充を目指すとともに、ウーブン・シティからの波及効果である「人と企業」を受け止めるための基盤整備を進め、誰もが住みたくなるまちづくりの実現を目指します。

北部地域の玄関口である岩波駅 周辺の拠点性向上

公共交通の拠点機能の向上を図るとともに、駅前の利便性向上を踏まえた賑わい創出を目指します。

誰もが住みたくなる職住近接の まちづくりの実現

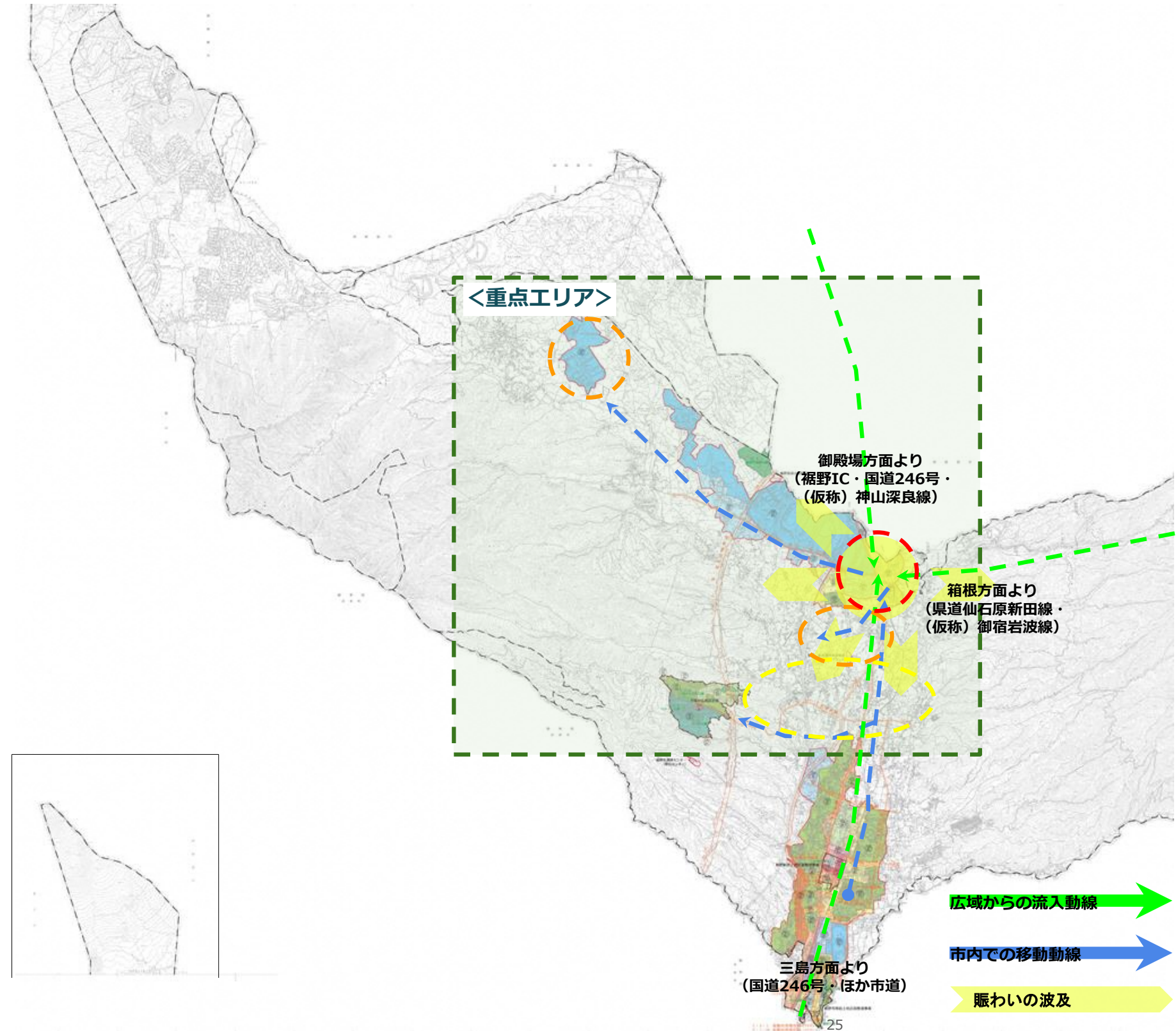
北部地域の特色である企業群との職住近接に配慮するとともに、日本のシンボルである富士山と自然環境が調和した誰もが住みたくなる住宅地の創出を目指します。

次世代のデジタル技術を活用した スマートシティ

グローバル企業やSDCC参画企業の最先端技術を活用し、低炭素社会の実現に向けたスマートシティの構築を目指します。

人や企業に選ばれるまち

北部地域の豊かな自然と未来都市やSDCC構想での取組みによる先端技術を融合し、人や企業に選ばれるまちの実現を目指します。



5. 基本構想

(3) まちづくりの重点施策

①短期的視点

ウーブン・シティとの融合を目指すにあたり、先に掲げたまちづくりのコンセプトの実現に向けて、各事業を計画的に進めていく必要があります。その中でも、ウーブン・シティが完成した際に、そこに集まる人や企業が大幅に増加することが予想されるため、最寄り駅である岩波駅周辺の整備は喫緊の課題です。

現在でも、朝夕の通勤時間帯には人が溢れ、危険な状態である岩波駅周辺については、今後の交流人口の増加（日本人、外国人、障がい者等）を見据え、誰にでも優しい、安全・安心のまちづくりを早急に進める必要があります。

また、今後は、世界中から来訪者を迎えるにあたり、本市が誇る世界遺産富士山の雄大な眺望や岩波の語源でもある溶岩流でできた「岩の波」の景観を活かし、市民が誇りをもって世界中の人を迎え入れることができる玄関口の整備を早急に進める必要があることから、岩波駅周辺エリアの整備を短期構想として位置付け進めていきます。

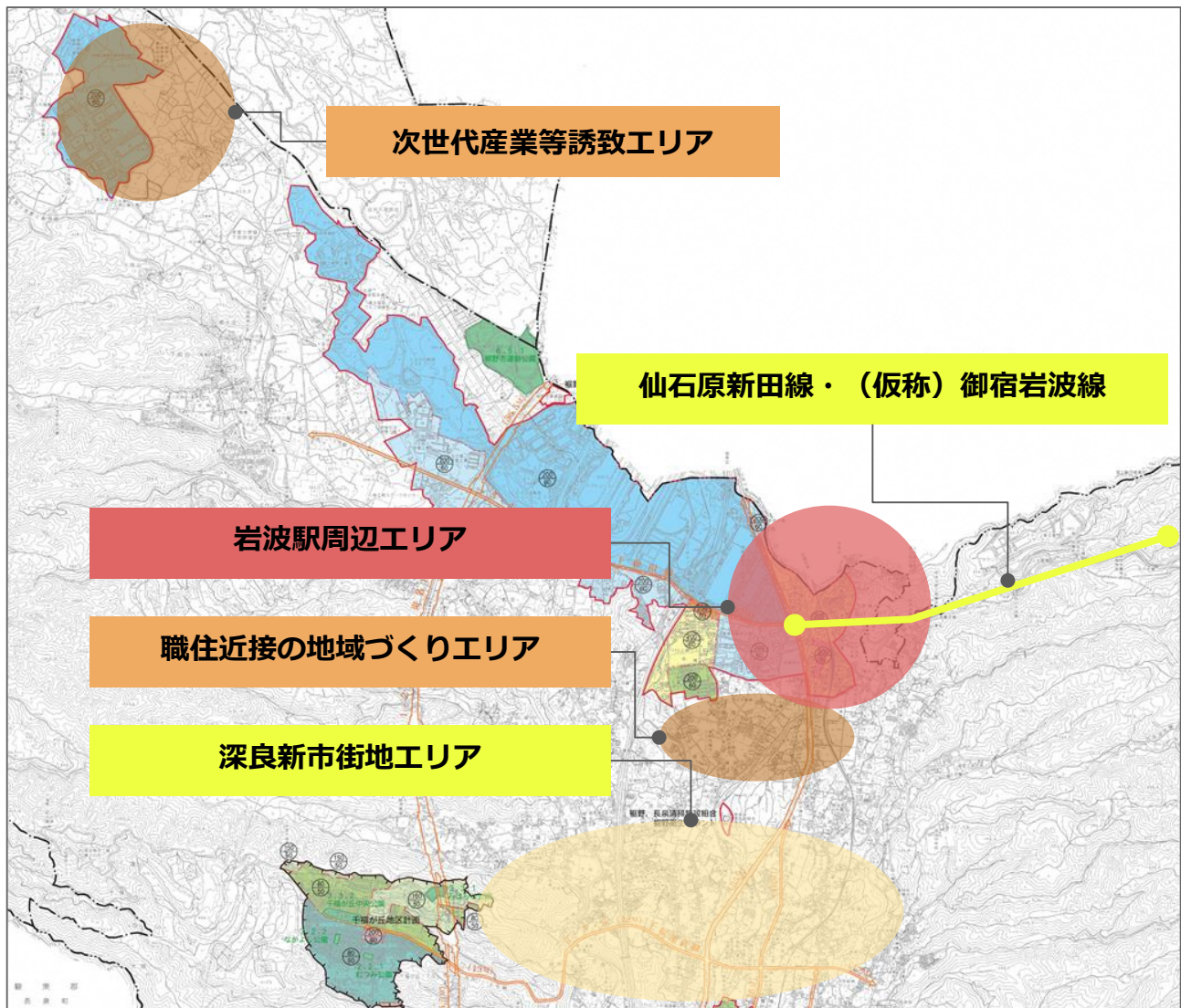
②中期・長期的視点

人口減少及び企業の移転が続く中で、新たにウーブン・シティに集まる人や企業の流れを本市でしっかりと受け止める必要があります。そのための施策として、富士裾野工業団地周辺に新たに次世代産業等誘致のための企業用地の創出や新たな住宅地を創出するための職住近接の地域まちづくりエリアでの整備を中期構想として位置付け、企業進出及び定住人口の増加を図ります。

また、中期構想の進捗を見極めながら、さらに北部地域での取組みを加速させるため、企業及び人の流れを戦略的に深良新市街地エリアまで拡大・誘導し、まちづくりと新駅設置の実現を図るほか、仙石原新田線と裾野インター線を結ぶ（仮称）御宿岩波線の整備を進め、さらなる交流人口の拡大を図ります。これらの施策を実施することにより、将来的には、ウーブン・シティからの波及効果を市内全域に広げていきます。

5. 基本構想

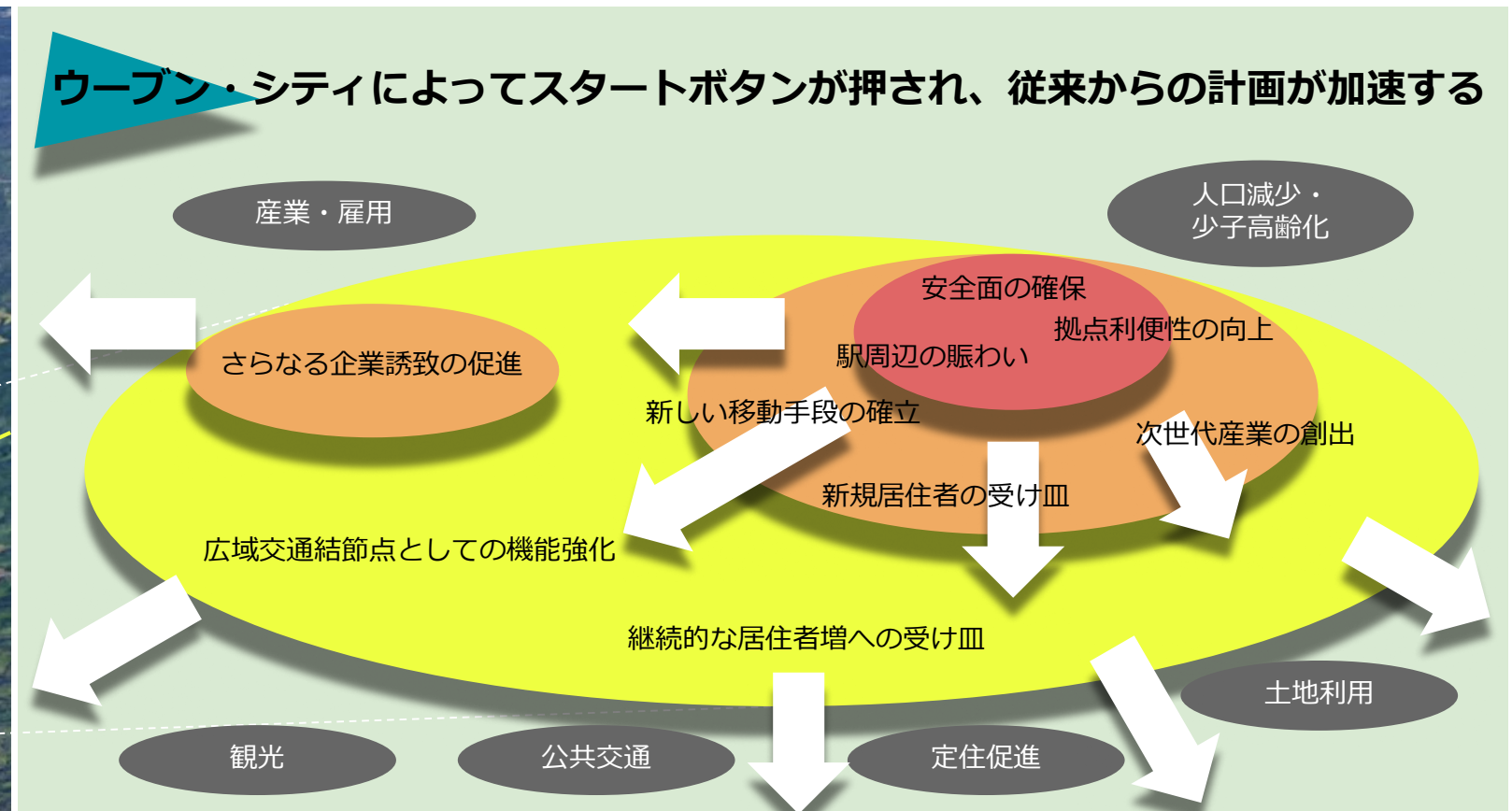
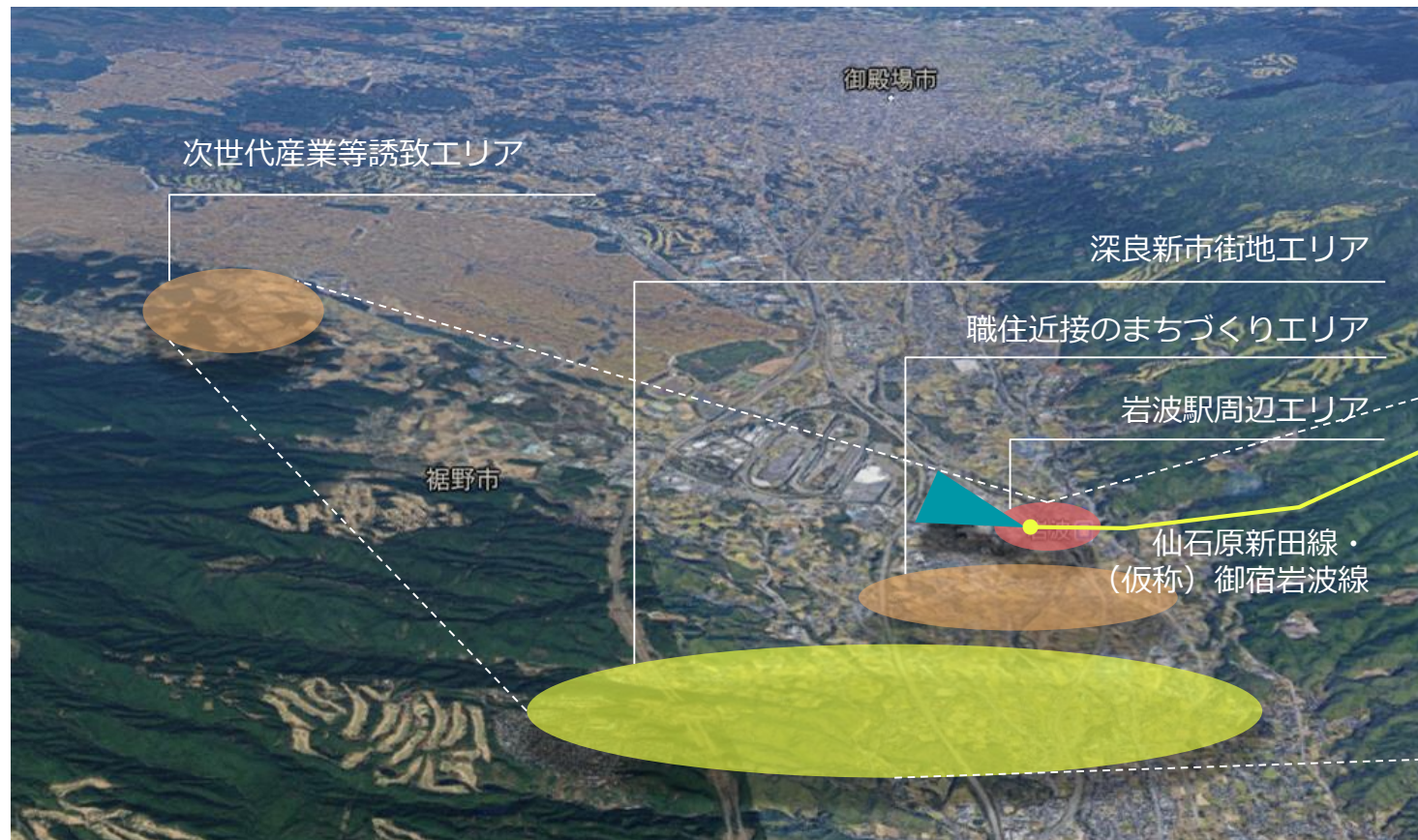
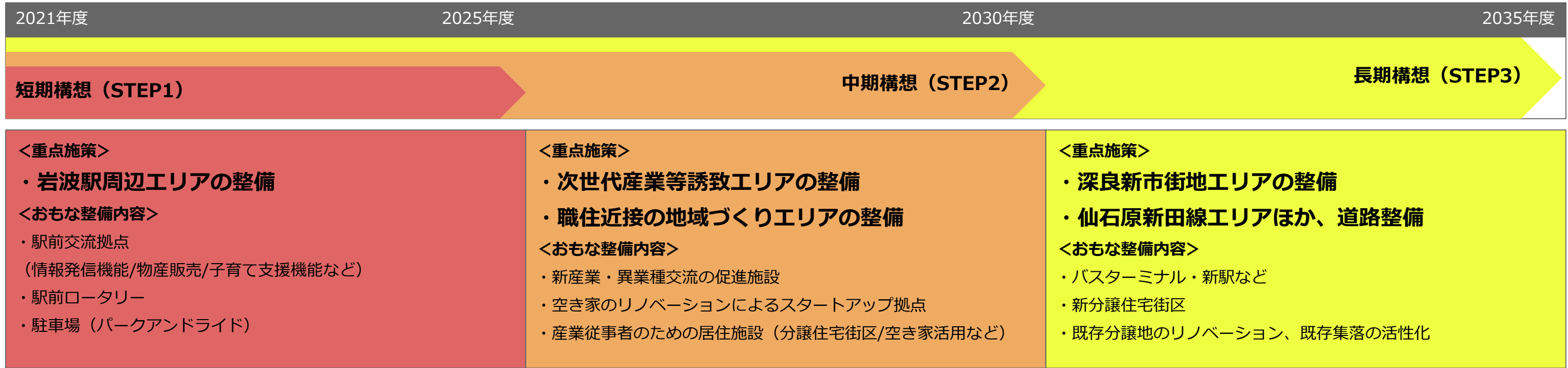
<各エリアの整備期間>



2021年度	2025年度	2030年度	2035年度
短期構想 (STEP1)		中期構想 (STEP2)	長期構想 (STEP3)
<重点施策> ・ 岩波駅周辺エリアの整備	<重点施策> ・ 次世代産業等誘致エリアの整備 ・ 職住近接の地域づくりエリアの整備	<重点施策> ・ 深良新市街地エリアの整備 ・ 仙石原新田線エリアほか、道路整備	

5. 基本構想

(4) まちづくりの重点施策の波及イメージ



5. 基本構想

(5) 整備イメージ

① 短期構想

岩波駅周辺を、ウーブン・シティをはじめとする新たな計画の中心地及び北部地域の交通結節点としての安全性・利便性の向上により、様々な人の集まり、交流の拠点として整備します。

<重点施策>

岩波駅周辺エリアの整備

<重点施策>

- ・岩波駅周辺エリアの整備

<おもな整備内容>

- ・駅前交流拠点
(情報発信機能/物産販売/子育て支援機能など)
- ・駅前ロータリー
- ・駐車場 (パークアンドライド)

<重点施策>

- ・次世代産業等誘致エリアの整備
- ・職住近接の地域づくりエリアの整備

<おもな整備内容>

- ・新産業・異業種交流の促進施設
- ・空き家リノベーションによるスタートアップ拠点
- ・産業従事者のための居住施設
(分譲住宅街区/空き家活用など)

<重点施策>

- ・深良新市街地エリアの整備
- ・仙石原新田線エリアほか、道路整備

<おもな整備内容>

- ・バスターミナル・新駅など
- ・新分譲住宅街区
- ・既存分譲地のリノベーション、既存集落の活性化

短期構想 (STEP1)

中期構想 (STEP2)

長期構想 (STEP3)



5. 基本構想

②中期構想

短期構想に位置付けた岩波駅周辺エリアの整備に引き続き、立地適正化計画において都市機能誘導区域に位置付けている裾野駅周辺、岩波駅周辺の2つの拠点をつなぐダイヤモンド富士構想を実現するため、イノベーションを起こす拠点に集う様々な来街者や、そこで育つ新たな世代の育成に相応しいエリアの整備を目指します。

<重点施策>

次世代産業等誘致エリアの整備

職住近接の地域づくりエリアの整備

<重点施策>

- ・岩波駅周辺エリアの整備

<おもな整備内容>

- ・駅前交流拠点
(情報発信機能/物産販売/子育て支援機能など)
- ・駅前ロータリー
- ・駐車場 (パークアンドライド)

<重点施策>

- ・次世代産業等誘致エリアの整備
- ・職住近接の地域づくりエリアの整備

<おもな整備内容>

- ・新産業・異業種交流の促進施設
- ・空き家リノベーションによるスタートアップ拠点
- ・産業従事者のための居住施設
(分譲住宅街区/空き家活用など)

<重点施策>

- ・深良新市街地エリアの整備
- ・仙石原新田線エリアほか、道路整備

<おもな整備内容>

- ・バスターミナル・新駅など
- ・新分譲住宅街区
- ・既存分譲地のリノベーション、既存集落の活性化

短期構想 (STEP1)

中期構想 (STEP2)

長期構想 (STEP3)



5. 基本構想

③長期構想

これまで北部地域の活性化に寄与すべく検討を重ねてきた深良新市街地、県道仙石原新田線・(仮称)御宿岩波線の整備、新たな駅の構想などについては、ウーブン・シティからの波及効果を得ながら事業の早期化を目指します。

<重点施策>

深良新市街地エリアの整備

仙石原新田線エリアほかの道路整備

<重点施策>

- ・岩波駅周辺エリアの整備

<おもな整備内容>

- ・駅前交流拠点
(情報発信機能/物産販売/子育て支援機能など)
- ・駅前ロータリー
- ・駐車場 (パークアンドライド)

<重点施策>

- ・次世代産業等誘致エリアの整備
- ・職住近接の地域づくりエリアの整備

<おもな整備内容>

- ・新産業・異業種交流の促進施設
- ・空き家リノベーションによるスタートアップ拠点
- ・産業従事者のための居住施設
(分譲住宅街区/空き家活用など)

<重点施策>

- ・深良新市街地エリアの整備
- ・仙石原新田線エリアほか、道路整備

<おもな整備内容>

- ・バスターミナル・新駅など
- ・新分譲住宅街区
- ・既存分譲地のリノベーション、既存集落の活性化

短期構想 (STEP1)



中期構想 (STEP2)



長期構想 (STEP3)

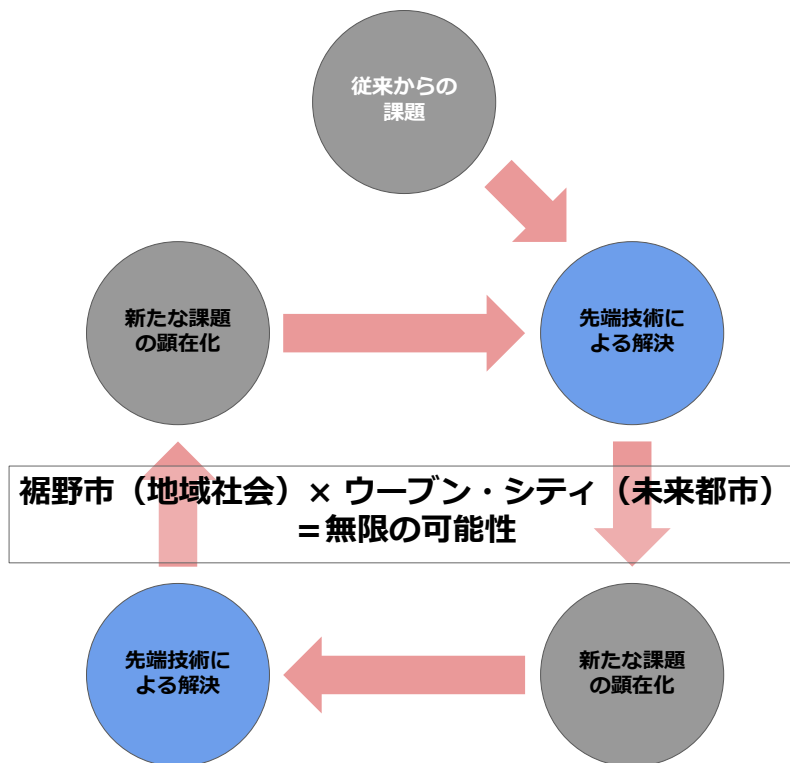


5. 基本構想

(6) 地域社会と未来都市の融合で描く未来

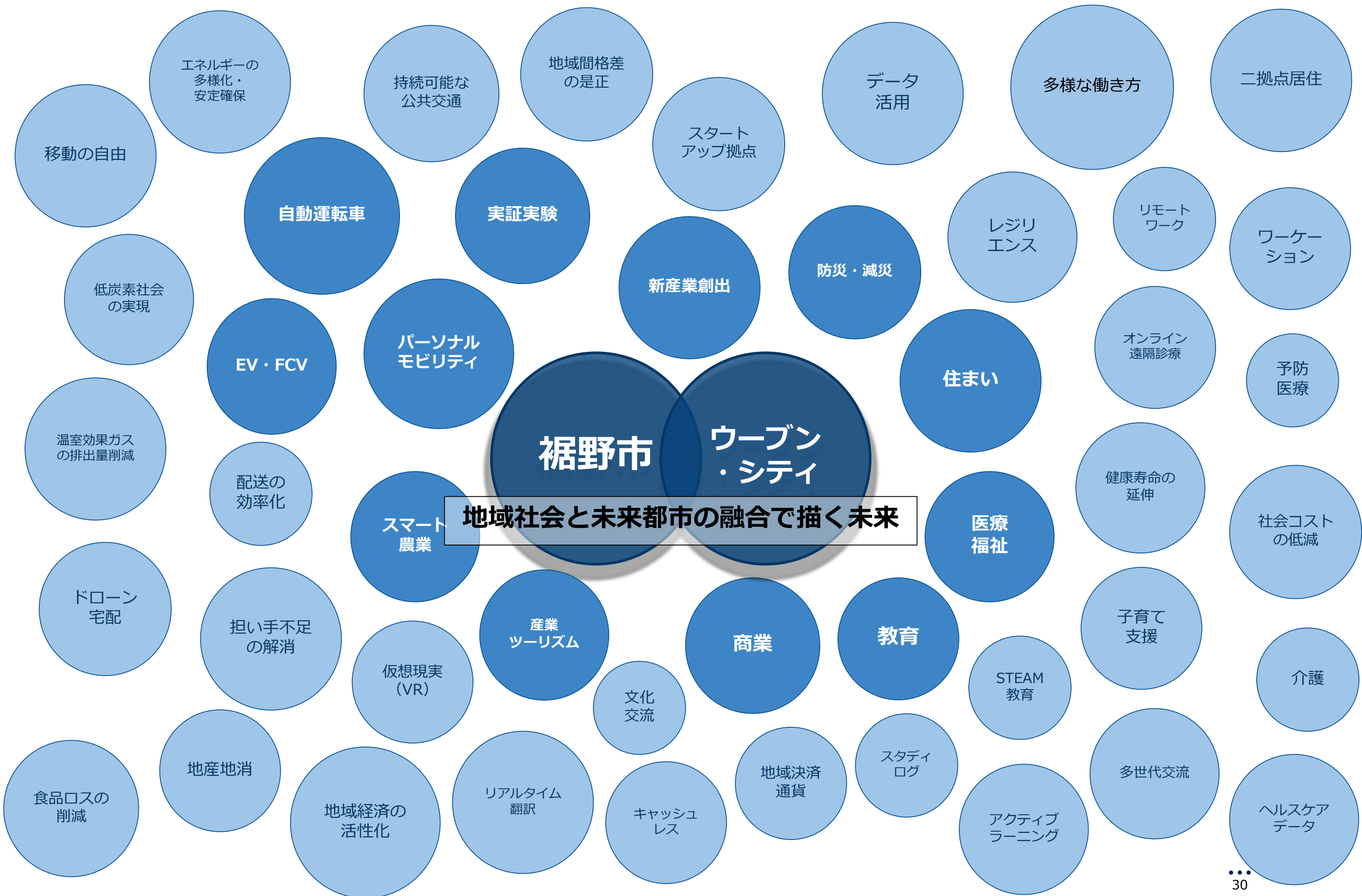
ここまで示したように、ウーブン・シティ（未来都市）を大きな契機として、当市における従来からの各種構想及び計画を実行に移し、さらにその波及効果により、市域全体におけるまちづくりを持続可能なものとして発展させていきます。裾野市（地域社会）とウーブン・シティ（未来都市）の融合には無限の可能性が 있습니다。30 ページにあります多くの青色の丸で示すとおりです。また、融合がもたらす日常生活の劇的な変化は、生活様式のあり様を根本から進化させ、ここ裾野市から発信する、市外、県外、世界に向けたみらいづくりの道標となっていくことでしょう。

ここで重要になるのは、先端技術が前面に出て、手段が目的化してしまういわゆる“技術オリエンテッド”な考え方をするのではなく、第4章でも掲げたような当市における課題をしっかりと認識し、それらの課題解決の手段として技術を活用する“課題オリエンテッド”の取組みとすることです。これによって初めて、様々な取組みが市民の生活の質や満足度の向上に繋がるものとなります。一方で、ウーブン・シティを中心に様々な実証実験が行われることで、これまで見えていなかった新しい課題が顕在化する可能性もあり、この点も、当市とウーブン・シティの融合による効果の一つと言えます。言い換えるならば、「従来からの課題」を「実証実験などから生まれる先端技術」が解決しながら、その過程で「新たな課題」が浮き彫りになり、さらに先端技術により解決が図られるといった、課題解決のサイクルが、地域社会と未来都市の融合の実現と捉えま



次ページ以降では、地域社会と未来都市の融合により実現を目指す“新しい生活様式”について、イメージを膨らませていきます。

5. 基本構想



5. 基本構想

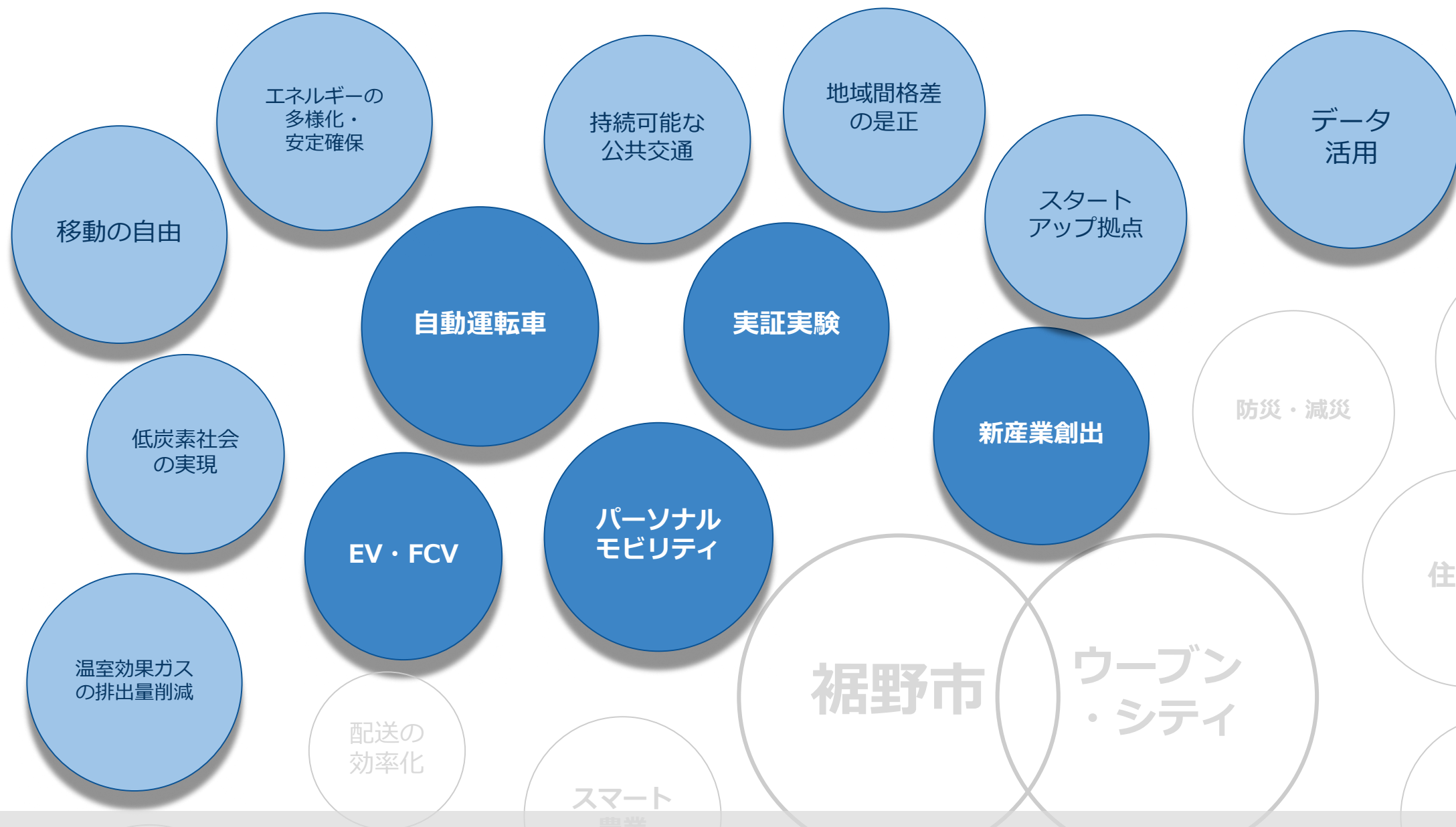
リモートワークの普及により、実証実験の場を求めるスタートアップ企業の従業者などをはじめとした人々が、豊かな自然や都会にはないゆとりある空間・時間を求めて、中長期の滞在や二拠点居住、さらには都心部からの移住が増える。

オンラインによる遠隔診療の活用が進み、高齢者の受診利便性の向上はもちろん、子育て世代も日々起きる子どもの心配事を気軽に相談することができる。また、ヘルスケアデータとの連動により、病気になる前からの健康維持、健康寿命の延伸が可能となる。こうしたことにより、社会コストの低減へとつながる。

教育の場においても先端技術の活用が進み、物理的な“場”に捉われない、“学びの質”の確保が可能となる。個人個人にあった学習速度や、興味関心に基づくテーマが提示され、真に“個性を伸ばす教育”が実現される。



5. 基本構想



クリーンエネルギーを活用した新世代車両の普及をはじめとして、エネルギーの多様化や安定確保、環境負荷の低減が推進される。

自動運転車両の普及や、データ活用による運行の効率化により、公共交通機関の利便性が向上し、快適に利用できる。

モビリティをはじめとした様々な分野における実証実験のフィールドとして活用され、実証から実装、また新たな実証へとフェーズが繰り返され、市民の実生活に組み込まれる。

実証実験を糸口に、多種多様なスタートアップが集まり、工業だけでなく、持続可能な新産業群が構築される。

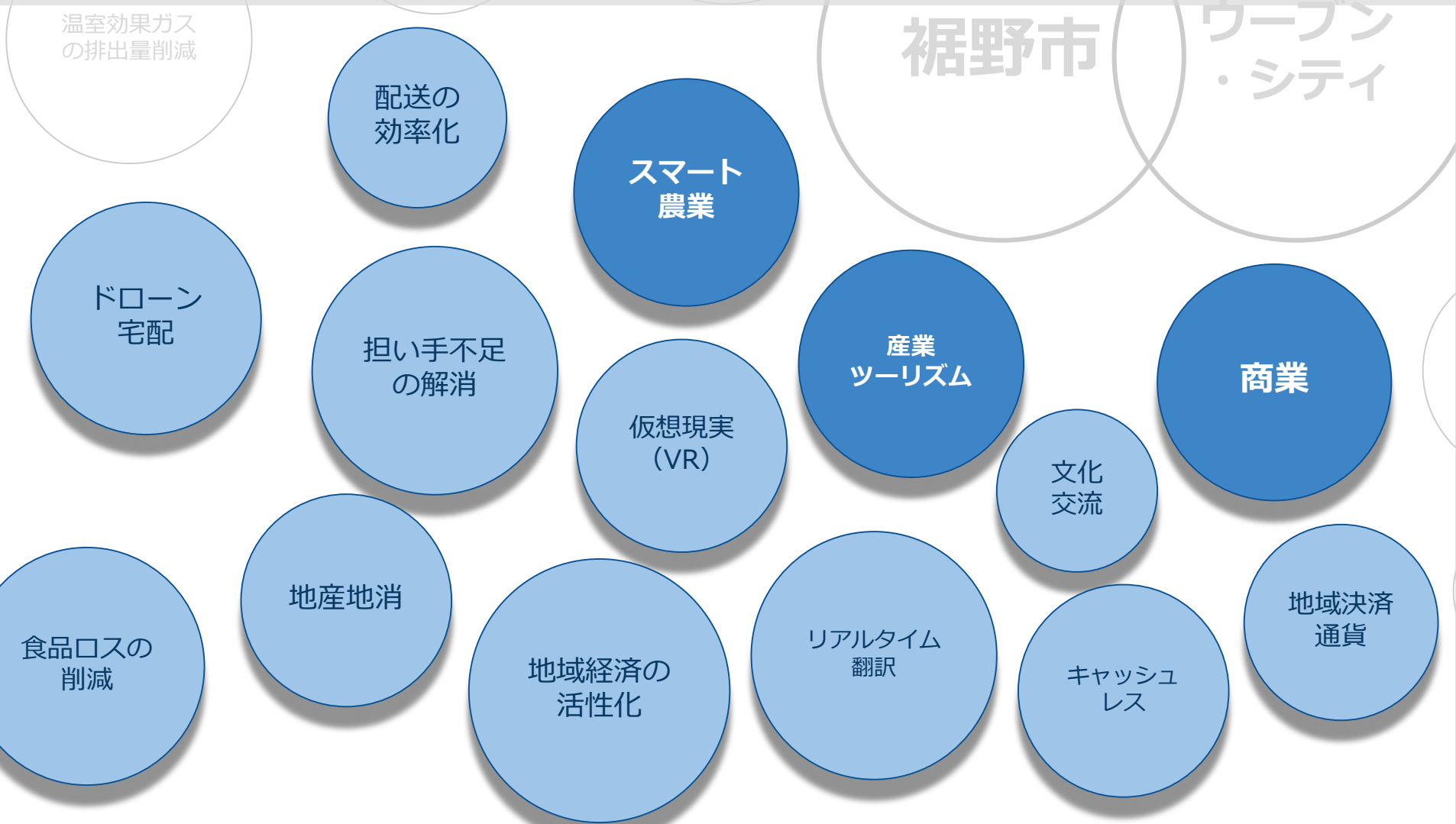


5. 基本構想

地域決済通貨や仮想現実（VR）技術、ドローンによる宅配などの導入により、店舗へ出かけることが難しい高齢者や障がい者も不便なく買い物ができ、その利便性を求める移住者も増えていく。

ICTを活用した農業の普及により、適切な時期に適量の農作物の栽培が可能となる。さらに、加工技術の高度化や配送の効率化などにより、地産地消や食品ロスの削減が進む。

海外からもより多くの観光客が訪れるようになり、リアルタイム翻訳技術などにより、来訪者と市民との気軽な交流が自然と生まれる。



6. 基本構想の実現に向けて

(1) 基本構想での施策実現に向けた手法の検討

先に掲げた各期間での重点施策の実現に向けて、具体的な計画の立案から、それらの発信方法、中間・事後の評価、検証の手法を検討します。

基本構想の主旨として、従来からの各種計画や市民発意による構想・アイデアと、ウーブン・シティに代表される未来都市のシームレスな融合を目指すものであることから、今後のまちづくりにおける開発区域を含めた市域全体の課題解決や都市基盤構築の検討が必要となります。そのために、基本構想の意図を地域住民、来街者、移住者など当市に関わるすべての人々に理解を促す必要があり、「適切な発信と理解」「市民ニーズの抽出」「地域の評価」といった観点による双方向型の計画づくりが求められます。

①基本計画の策定

岩波駅周辺を対象範囲として、概ね5年間程度の事業内容を検討し、さらに事業化に向けた手法を検討・協議します。

整備手法の検討（面的に推進/道路事業の推進など）
地権者・利害関係者・市民の合意形成（ウーブン・シティへの理解を深めたうえで、整備を進める）
種々施策の関連性及び実現に向けた優先順位の見える化など

②広く市民、事業者が発信するためのプロモーション方針の整理

構想・施策の実現に向けて、市民や事業者の賛同も得ながら着実に進めるために、情報発信手法の検討を実施します。

まちづくり協議会やまちづくり会社などの組織構築検討
新産業誘致のためのプロモーション実施
デジタル目安箱の創設検討（幅広く市民、事業者からの意見を募る）など

③評価・検証方法の設定

本構想の取り組みの効果を測定するため、中間成果指標及びKPI等を設定します。基本的には、基本計画の中に具体的な評価・検証方法も盛り込むことを前提とします。

社会実験を通じた効果検証（公共交通の維持や新しい移動手段の検証、地域決済通貨（地域ペイ）の活用検証など）
多様な評価手法の導入（歩行者量や交通量の変化、地域での商業店舗の出店者数の変化、小売単価、地域ペイの導入による経済効果の可視化、来街者数の一元管理手法の導入など）など



裾野市北部地域まちづくり基本構想

裾野市企画部みらい政策課

410-1192 裾野市佐野 1059 番地

TEL:055-995-1804 FAX:055-995-1861